

A close-up, high-angle photograph of a person's eyes, looking slightly to the right. The image is soft and out of focus, with a warm, golden-brown color palette. The person's face is partially visible, showing the bridge of the nose and the side of the head.

Leap to Growth



会計基準に関する注意事項

参天製薬グループでは、財務情報の国際的な比較性向上を目指し、2015年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用しています。なお、2014年3月期の諸数値をIFRSに組み替えて比較分析を行っています。

グラフに関する注意事項

このアニュアルレポート内のグラフの年表示は、特に記載がない場合は、3月31日に終了した会計年度を示しています。

データに関する注意事項

このアニュアルレポートにおいて、IMSデータ(JPM)に基づく記載があります。

出典:©2015 IMS Health
IMS-JPM 2009.4-2015.3を基に参天製薬分析
無断転載禁止

〈基本理念〉

天機に参与する¹

肝心な事は何かを深く考え、どうするか明確に決め、迅速に実行する。

「目」をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、
これによって参天ならではの知恵と組織的能力を培い、
患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として、社会への寄与を行う。

1. 中国の古典「中庸」の一節を参天が独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。
自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するということを意味しています。

1890年の創業以来、参天製薬が大切にしてきたこと。

それは、当社の基本理念「天機に参与する」の中で表現されています。当社は、眼科領域に特化したスペシャリティ・カンパニーとして、「創造と革新」を繰り返し、人々の目とからだの健康維持・増進に寄与してきました。120年を超える歴史を通じて培ってきた参天製薬の知恵と組織的能力を礎に、これからも患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への貢献を果たしてまいります。

CONTENTS

- 1 基本理念
- 2 参天製薬の経営ビジョンと強み
- 6 連結財務ハイライト
- 9 At a Glance
- 10 社長兼CEOメッセージ
- 16 **特集：欧州事業の拡大と成長の加速**
～眼科のスペシャリティ・カンパニーとしての貢献～
- 22 研究開発
- 24 開発の進捗状況
- 28 事業別概況 国内事業
- 36 事業別概況 海外事業
- 38 企業の社会的責任(CSR)
- 42 コーポレート・ガバナンス
- 47 取締役、監査役
- 48 執行役員
- 49 財務情報
- 65 会社概要／株式情報
- 66 事業拠点
- 68 沿革

見直しに関する注意事項

このアニュアルレポートは、参天製薬の戦略・計画・業績などに関する将来の見直しを含んでいます。この見直しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向など様々な要素により、これら見直しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。



基本理念を事業活動の原点とし
長期的な経営ビジョンの実現を目指します。

2020年までの長期的な経営ビジョン

「世界で存在感のある スペシャリティ・カンパニー」の実現

真の顧客ニーズを深く考え、競合企業に対する明確な強みをもって、
グローバルな競争力・存在感を持つ会社

長期的な成長の目標

●医療用眼科薬事業

日本・アジアで

グローバル

No.1 トップ 3



経営ビジョン

参天製薬は、2020年までの長期的な経営ビジョンとして「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を掲げています。「2014-2017年度中期経営計画」では、製品の継続的な上市とアジア・欧州での成長と収益化を中期的な戦略としており、当社の強みをより強固なものとする事業活動に全社一丸となって取り組んでいます。



「2014-2017年度中期経営計画」 基本方針

- 製品創製** 持続的成長を可能とするための製品創製への変革、生産性向上の実現
- 事業展開** アジア・欧州での事業成長および新規市場参入によるプレゼンスの向上
- 組織・人材** 持続的成長を実現するための人材育成および組織構築

➔ 詳しくは、こちらをご覧ください。
P.10 社長兼CEOメッセージ

●2020年度海外売上比率

40% ~ 50%



眼科領域における専門性をさらに高め
世界の患者さんに貢献していきます。

事業領域

参天製薬は、眼科領域に特化した専門分野に経営資源を集中し、医療現場で求められる価値ある製品を創出するとともに、質の高い医薬情報提供活動を通じて、市場における高い地位を堅持しています。



詳しくは、こちらをご覧ください。

P.28 事業別概況



医療用眼科薬

国内市場シェア

No.1

眼科医の数は、日本全国で約1万3,000人。
参天製薬の擁する約400人のMR
(医薬情報担当者)は、
国内のほとんどの眼科医を個々に訪問し、
きめ細やかな医薬情報提供活動を実施しています。

一般用医薬品

国内市場シェア

No.2

医療用
抗リウマチ薬

医療機器

その他医薬品等

2015年3月期売上収益

1,618億円

医療用眼科薬
売上収益構成比

84.1%

●製品販売国

50

カ国以上

グローバル市場でのプレゼンス



●点眼剤 年間製造本数

約 **3** 億本

5mLボトルで換算

●生産拠点

4 工場

能登、滋賀(日本)、蘇州(中国)、
タンペレ(フィンランド)

連結財務ハイライト

参天製薬株式会社および子会社 3月31日に終了した会計年度

	単位:百万円				単位:千米ドル		増減率 2015/2014
	2011	2012	2013	2014	2015	2015	
	日本基準	日本基準	日本基準	IFRS	IFRS	IFRS	
会計年度:							
売上高/売上収益	¥ 110,812	¥ 114,416	¥ 119,066	¥ 146,260	¥ 161,831	\$ 1,346,680	10.6%
営業利益	30,739	26,732	24,681	29,878	35,374	294,369	18.4
コア営業利益	—	—	—	30,403	39,088	325,272	28.6
当期純利益/当期利益	21,333	17,161	16,521	19,718	24,032	199,985	21.9
包括利益	19,797	16,966	21,729	27,169	32,446	270,011	19.4
研究開発費	13,221	17,225	16,720	16,862	17,477	145,437	3.7
設備投資額(支払ベース)/ 有形固定資産および無形資産の取得による支出	1,651	3,281	3,609	5,879	66,440	552,889	—
減価償却費及び償却費	2,976	2,949	3,291	2,841	6,958	57,899	144.9
会計年度末:							
総資産/資産合計	¥ 184,801	¥ 198,801	¥ 199,641	¥ 237,640	¥ 304,200	\$ 2,531,411	28.0%
自己資本/親会社所有者帰属持分	156,099	164,514	164,808	187,210	211,779	1,762,330	13.1
長期債務/金融負債(非流動)	152	179	145	102	25,351	210,958	—
1株当たり情報(円および米ドル):							
当期純利益/基本的当期利益(EPS)	¥ 249.71	¥ 196.96	¥ 195.81	¥ 47.78	¥ 58.18	\$ 0.48	21.8%
潜在株式調整後当期純利益/希薄化後当期利益	249.42	196.76	195.51	47.63	57.93	0.48	21.6
純資産/親会社所有者帰属持分	1,793.15	1,887.81	1,998.44	452.43	511.14	4.25	13.0
配当金	90.00	100.00	100.00	100.00	110.00	0.92	10.0
財務指標等:							
営業利益率(%)	27.7	23.4	20.7	20.4	21.9		
海外売上高/売上収益比率(%)	16.5	16.6	15.4	16.5	22.9		
研究開発費対売上高/売上収益比率(%)	11.9	15.1	14.0	11.5	10.8		
自己資本 当期純利益率/ 親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)(%)	14.5	10.7	10.0	11.1	12.0		
配当性向(%)	36.0	50.8	51.1	41.9	37.8		
従業員数(名)	2,867	3,053	3,050	3,072	3,230		

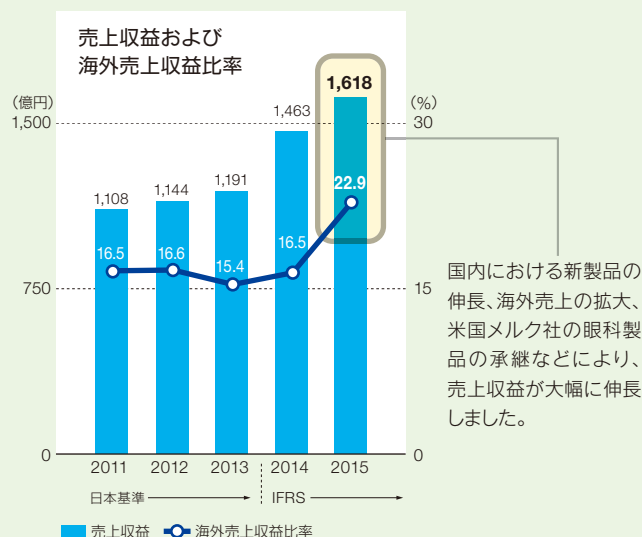


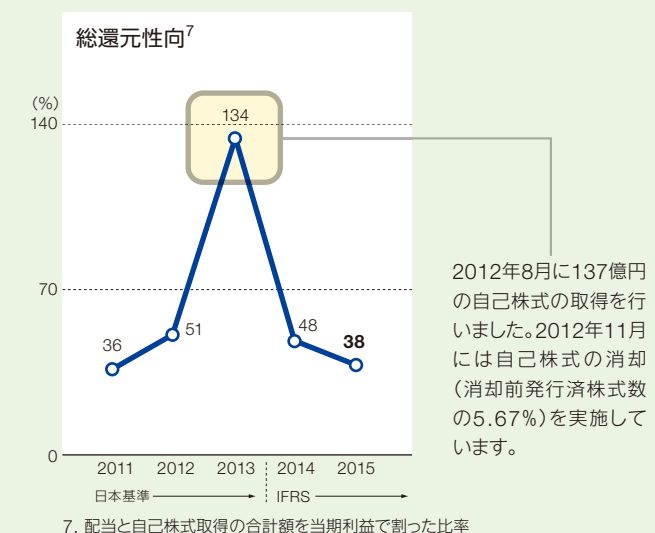
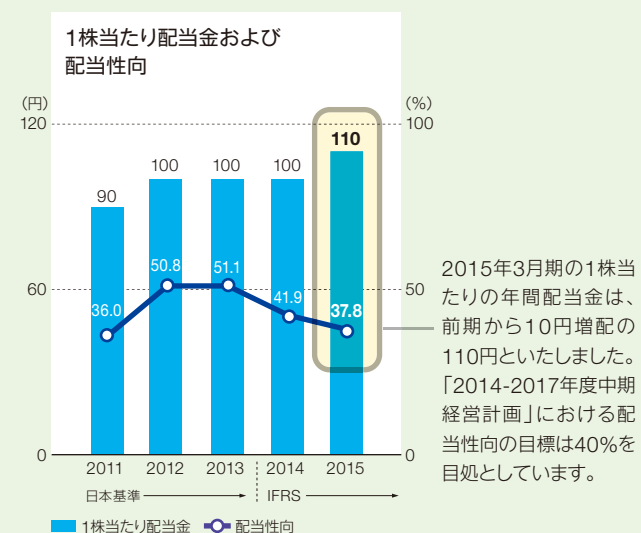
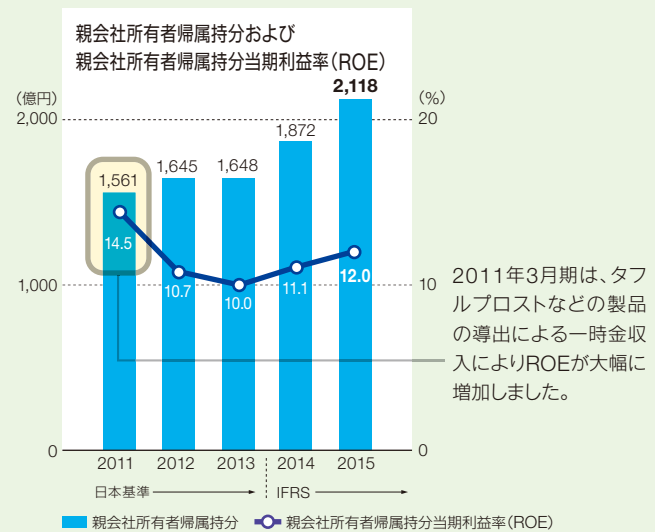
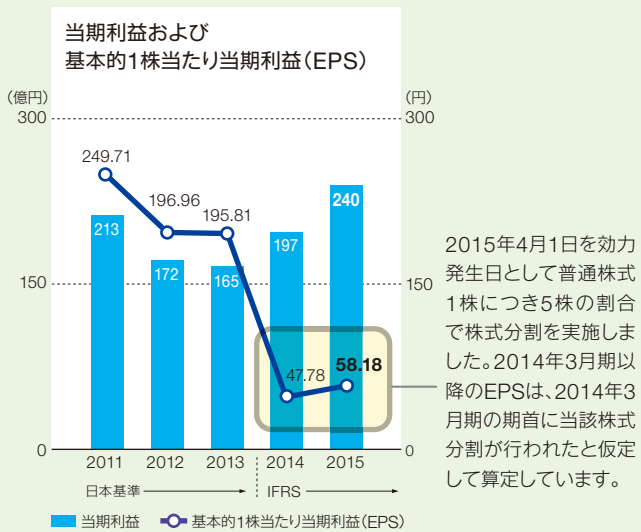
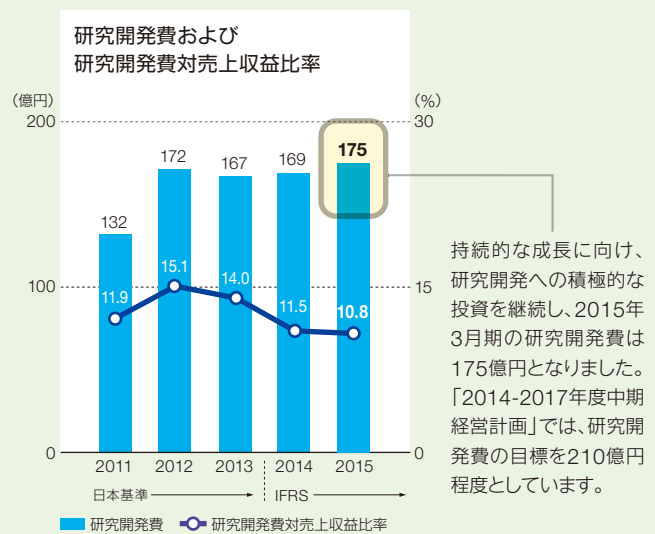
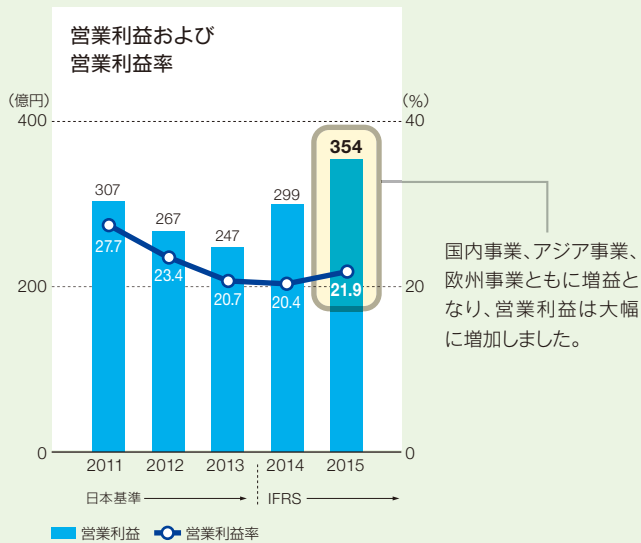
詳しくは、こちらをご覧ください。

P.50 経営成績および財政状態に関する分析 P.56 11年間の要約財務データ

(注)

1. 参天製薬グループでは、2015年3月期から国際会計基準(IFRS)を適用しています。IFRSと日本基準との差異、コア営業利益の定義については、P.8をご参照ください。なお、コア営業利益は、2014年3月期以降の数値について開示しています。
2. 2014年3月期の諸数値はIFRSに組み替えて、2013年3月期以前の数値は日本基準に基づき算出しています。
3. 当社は、2015年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。2014年3月期以降の財務指標については、2014年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています(配当金を除く)。
4. 表にはIFRSと日本基準の勘定科目を併記していますが、グラフにはIFRSの勘定科目のみを記しています。
5. 米ドルの金額は、読者の便宜のため、2015年3月31日現在の為替相場1米ドル=120.17円で換算しています。
6. 自己資本は、純資産から新株予約権を控除して算出しています。





7. 配当と自己株式取得の合計額を当期利益で割った比率

国際会計基準(IFRS)について

国際会計基準 (IFRS) の適用

参天製薬は、日本、アジア、および欧州などで事業を展開しています。また株主構成は、外国人投資家の株式保有比率が40%を超える高い水準となっています。これらの状況を踏まえ、財務情報の国際的な比較性向上を目指し、2015年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用しています。日本基準とIFRSとの主要な差異は、以下の通りです。

表示科目

〈日本基準〉	〈IFRS〉
売上高	売上収益
営業利益	営業利益
金融関連以外の営業外損益	
特別損益	
当期純利益	当期利益

詳細項目

製品・技術の導入に伴う支払

〈日本基準〉	〈IFRS〉
■ 当局承認以前の支払 ↳ 全額費用化	当局承認以前の支払 当局承認以降の支払
■ 当局承認以降の支払 ↳ 資産計上 発売開始、使用開始時点から、主に特許期間・契約期間にわたって償却	↳ 資産計上 発売開始、使用開始時点から、主に特許期間・契約期間にわたって償却 回収不能と判断された時点で減損

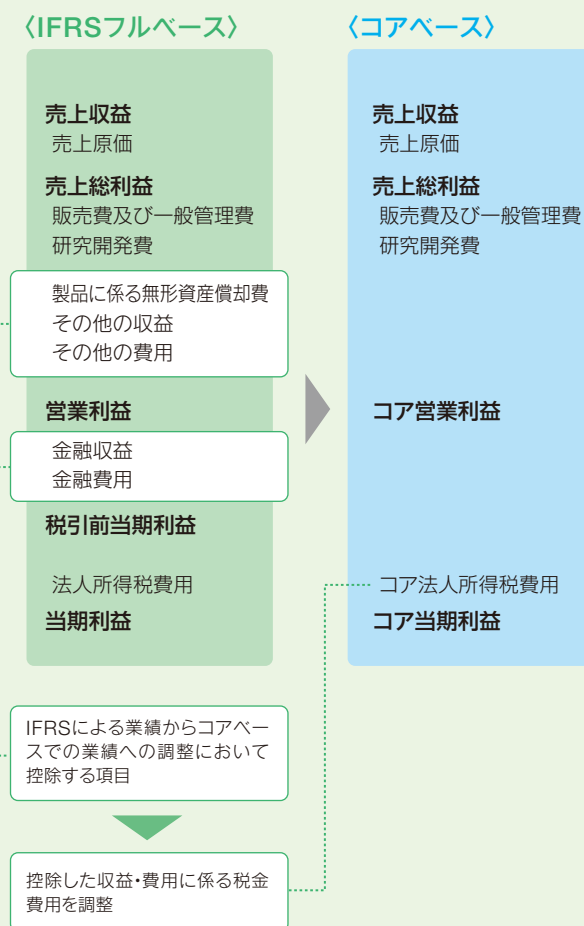
のれん

〈日本基準〉	〈IFRS〉
一定期間で償却	償却せず

コアベースでの業績指標の採用

IFRSによる業績(IFRSフルベース)から一部の収益、費用を控除したコアベースでの財務情報を経常的な業績を示す指標として、併せて開示します。

コアベースの定義は、以下の通りです。



IFRSフルベース／コアベースでの業績

〈IFRSフルベース〉

単位：百万円

	2014年3月期	2015年3月期	増減率
売上収益	146,260	161,831	10.6%
営業利益	29,878	35,374	18.4%
当期利益	19,718	24,032	21.9%

〈コアベース〉

単位：百万円

	2014年3月期	2015年3月期	増減率
売上収益	146,260	161,831	10.6%
営業利益	30,403	39,088	28.6%
当期利益	19,813	25,948	31.0%

売上収益

医療用医薬品

医療用眼科薬

136,059 百万円

国内市場シェア

40.1%

1位¹

売上収益構成比

84.1%

医療用抗リウマチ薬

9,629 百万円

売上収益構成比

6.0%

一般用医薬品

6,706 百万円

国内市場シェア

20.1%

2位³

売上収益構成比

4.1%

医療機器

2,327 百万円

売上収益構成比

1.4%

その他医薬品等

7,110 百万円

売上収益構成比

4.4%

業績概況

国内事業

●薬価改定などの影響がありましたが、顧客ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開することにより、売上収益は前期比3.5%増となりました。

海外事業

●欧州では緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」(日本製品名:タフロス、一般名:タフルプロスト)などの主力製品の市場浸透が進み、アジアにおいては中国を中心に大幅に伸長しました。加えて、米国メルク社の眼科製品の承継などにより、売上収益は前期比32.1%増となりました。



詳しくは、こちらをご覧ください。

P.29 国内事業・医療用医薬品 眼科薬
P.36 海外事業



●疾患修飾性抗リウマチ薬(DMARDs²)の売上収益は前期比6.1%減となりました。2015年8月、抗リウマチ薬事業をあゆみ製薬株式会社(旧商号:ヒュペリオンファーマ株式会社)へ承継しました。



詳しくは、こちらをご覧ください。

P.34 国内事業・医療用医薬品 抗リウマチ薬

●「サンテ」シリーズ全体のブランド価値向上のためのブランド横断キャンペーンなどの販促促進活動に注力したことや、主力製品が堅調に推移したことなどにより、売上収益は前期比4.1%増となりました。



詳しくは、こちらをご覧ください。

P.34 国内事業・一般用医薬品



●高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」シリーズの普及促進活動に注力しましたが、競合の影響などもあり、売上収益は前期比13.1%減となりました。



詳しくは、こちらをご覧ください。

P.35 国内事業・医療機器



●その他医薬品には、技術提携(導出)契約に基づく収入、受託製造、米国メルク社の眼科製品の承継に伴う収益などが含まれます。売上収益は前期と比べ大幅に増加しました。
●上記以外の売上収益は、株式会社クレールでの無塵・無菌服のクリーニング業と、サプリメント製品の販売によるものです。

(注) 1. 2015年3月期の市場シェアおよび国内地位 出典:IMS-JPM データに基づく参天製薬分析

2. 関節リウマチの病因の一つとされる免疫異常を是正することにより炎症を沈静化させ、抗リウマチ効果を発現させる、原因療法に一步近づいた薬剤の総称

3. 2015年3月期の国内一般用点眼薬市場でのシェアおよび市場地位 出典:参天製薬集計資料



参天製薬は、長期的な経営ビジョンである
「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」
の実現に向けて、さらなるチャレンジを続けています。
今後も、眼科領域に特化した専門分野に努力を傾注し、
社会への寄与を果たしてまいります。
ステークホルダーの皆様には、
より一層のご理解とご支援を賜りますよう
お願い申し上げます。

2015年8月
代表取締役社長兼CEO

黒川 明

2015年3月期の業績

売上収益は過去最高を更新しました。
新製品の伸長や、海外事業の成長などによって予想を上回る業績を達成し、
株主還元については増配いたしました。

「2014-2017年度中期経営計画」の初年度である2015年3月期は、参天製薬にとって飛躍の年となりました。売上収益は、前期比10.6%増の1,618億円と過去最高を更新しました。営業利益は同18.4%増の354億円、当期利益は同21.9%増の240億円でした。この成果は、新製品の伸長や、海外事業の進展、および米国メルク社の眼科製品の承継に伴う増収によるものであり、2020年までの長期的な経営ビジョンの実現に向けて力強く前進できたと考えています。

国内医療用眼科薬事業では、網膜疾患領域の治療ニーズに応える眼科用VEGF阻害剤「アイリニア」(一般名:アフリベルセプト(遺伝子組換え))が引き続き大きく伸長したことに加え、抗アレルギー点眼剤「アレジオン」(一般名:エピナスチン塩酸塩)も増収に寄与しました。海外事業においては、欧州では主力製品である緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」(日本製品名:タプロス、一般名:タフルプロスト)の市場浸透が進み、アジアでは中国を中心とした売上拡大により、さらなる事業成長を実現しました。

参天製薬は、「2014-2017年度中期経営計画」の基本方針として、「製品創製」、「事業展開」、「組織・人材」に注力した戦略を掲げています。

「製品創製」の要となる研究開発では、未充足ニーズを満たす新製品の開発が着実に前進しました。2015年3月に、成人患者において人工涙液等で効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症として、「Ikervis」(日本語読み:アイケルビス、一般名:シクロスポリン、開発品名:シクロカット)(以下、「アイケルビス」)の販売承認を欧州で取得し、2015年7月以降順次、ドイツ、イギリスなど欧州各国での発売を開始しました。また、2015年2月には欧州で、非感染性後眼部ぶどう膜炎を対象として、DE-109(一般名:シロリムス)の販売承認を申請しています。

「事業展開」については、米国メルク社の製品承継による売上成長に加え、展開地域の拡大を通じて、欧州・アジア

事業のさらなる基盤強化を推進しています。また、「組織・人材」については、グローバルに期待する人材像を示す基軸を構築するなど、着実に取り組みを進めています。

さらに、2015年5月には、当社の抗リウマチ薬事業をあゆみ製薬株式会社(ヒュペリオンファーマ株式会社より商号変更、以下、あゆみ製薬)に承継する契約を締結し、8月3日付で承継を完了しました。これにより、参天製薬は眼科領域に特化した事業体制へと移行し、従来にも増してスペシャリティ・カンパニーとしての専門性を高め、患者さんのQOL(Quality of Life:生活の質)の向上に貢献していきます。

株主還元の充実に向けて

参天製薬では、株主の皆様への安定的な利益還元を経営の重要課題に位置付けています。

2015年3月期の1株当たりの年間配当金は前期から10円増配の110円といたしました。その結果、配当性向は37.8%となりました。今後も、研究開発投資などにおける資金を確保しながら、自己株式取得などの機動的な対応も必要に応じて検討し、安定的な株主還元を努めてまいります。また、投資家層の拡大と株式の流動性の向上を図ることを目的に、2015年4月1日を効力発生日とし、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。

「2014-2017年度中期経営計画」財務目標と進捗

	2015年3月期 実績	2018年3月期 目標
売上収益	1,618億円	2,050億円以上
営業利益	354億円	450億円以上
当期利益	240億円	310億円以上
ROE	12.0%	13.0%以上
研究開発費	175億円	210億円程度

抗リウマチ薬事業の承継

抗リウマチ薬事業の承継によって、眼科領域に完全に特化した スペシャリティ・カンパニーとして成長を加速させます。

参天製薬は、2015年5月に、当社の抗リウマチ薬事業を、新たに設立されたあゆみ製薬に事業承継するための契約を参天製薬、あゆみ製薬、昭和薬品化工株式会社の間で締結し、会社分割法による、同事業の権利義務のあゆみ製薬への承継を8月3日付で完了しました。

当社は1987年以来、医療用抗リウマチ薬市場に製品を供給し、確固たるプレゼンスを確立してきましたが、事業環境が急激に変化する中、将来的な抗リウマチ薬事業の

発展、患者さんや医療関係者へのさらなる貢献を念頭に置いて熟慮し、事業承継の決定に至りました。

今後は、事業活動を眼科領域に特化し、従来にも増して専門性を高めることによって成長を加速させ、「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を目指します。

「2014-2017年度中期経営計画」達成に向けて

製品創製 研究開発

グローバル研究開発における大きな成果を足がかりに 製品創製、生産性向上の実現に向けた取り組みに注力します。

研究開発においては、「持続的成長を可能とするための製品創製への変革、生産性向上の実現」を基本方針として、参天製薬の強みを生かせる領域である角結膜疾患、緑内障・高眼圧症、網膜・ぶどう膜疾患を中心とした製品創製に注力しています。

2015年3月には欧州で、成人患者において人工涙液等で効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症として、「アイケルビス」の販売承認を取得しました。欧州のドライアイ患者さんの未充足ニーズに応える医薬品を創出することは、「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を目指す当社にとって、意義深い成果であると考えています。「アイケルビス」に導入された当社独自のノバゾーブ技術¹については、眼表面へ薬剤を素早く広げ、滞留効果を高めることが期待されています。

2015年2月に、非感染性後眼部ぶどう膜炎を対象として、欧州で販売承認を申請したDE-109については、引き続き米国・アジアで第3相国際共同治験を実施しており、世界の患者さんが待ち望んでおられる希少疾病用医薬品²

としての上市を目指します。

また、外部の化合物や技術も積極的に活用する「ネットワーク製品創製³」も推進しており、2014年11月には、多様なトランスレーショナル・リサーチ⁴力を有するシンガポール最大の国立眼科研究所SERI⁵との戦略的共同研究を立ち上げました。さらに、既存品の製品価値最大化を図るために、ライフサイクルマネジメント⁶にも積極的に取り組んでいます。参天製薬は今後も、日・米・欧の研究開発拠点の連携のもと、未充足ニーズを満たす差別化された製品の迅速な創出に努めていきます。

1. 乳化点眼剤に正電荷を付与することで、点眼剤を眼表面に広く行き渡らせる技術
2. 患者さんの数が少ない疾病。例えば米国で定められている患者さんの基準数は20万人未満で、各国の当局は、希少疾病用医薬品の開発を様々な形で支援している
3. 社外に存在する化合物や技術を積極的に活用し、製品創製に応用する手法
4. 基礎研究・臨床研究・診療をつなげて、医療発展に寄与する成果を効率的・効果的に実用化させる橋渡し研究
5. Singapore Eye Research Institute: シンガポール眼科研究所(シンガポール・アイ・リサーチ・インスティテュート)
6. 一つの化合物を治療ニーズに合わせ、用法・用量・剤形、さらには配合剤など様々な工夫を加えることで、長期にわたり製品価値を高めること

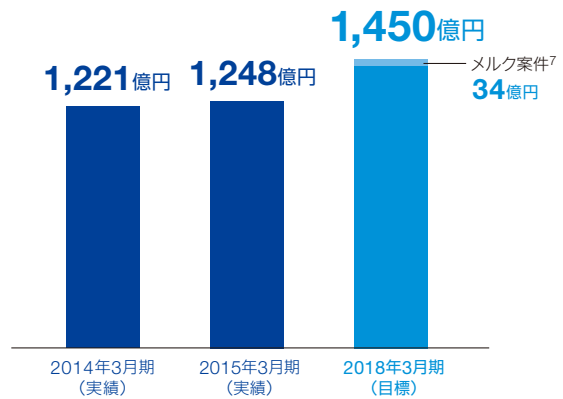
新製品と専門性を生かした情報・サービスによる 治療貢献を通じた持続的成長を目指します。

国内事業では、新製品の価値最大化により競争優位性を高め、国内での高いプレゼンスとスペシャリティ・カンパニーとしての経験知と専門性を生かした製品・サービスの提供による成長を追求しています。

医療用眼科薬事業については、薬価改定や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響を受けましたが、顧客の潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開することにより、2015年3月期の売上収益は前期比3.5%増の1,053億円となりました。

「2014-2017年度中期経営計画」においては、「アイリーア」「アレジオン」等の新製品の価値最大化に向けた医薬情報提供活動に注力するとともに、医療用医薬品、一般用医薬品、医療機器事業の連携を強化し、国内での高いプレゼンスとスペシャリティ・カンパニーとしての強みを生かした事業成長を実現します。

国内事業 売上実績と2018年3月期目標



7. 米国メルク社から承継した眼科製品からの事業貢献



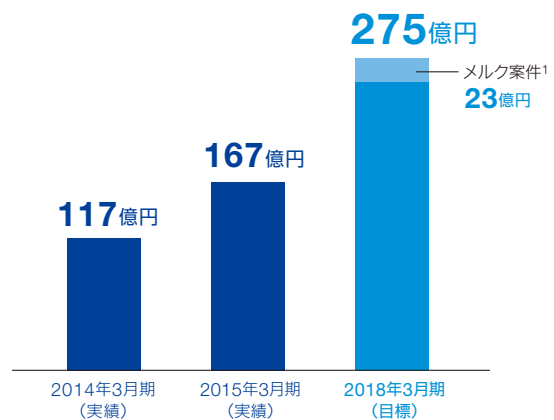
事業展開

アジア事業

重点国でのシェア拡大に向けた事業強化を進め
市場成長率を上回る売上成長と利益の最大化を図っています。

アジア事業では、中国・韓国・ベトナムを重点国と位置付け、2020年までの長期的な経営目標として掲げている「アジアNo.1」を目指して、市場成長を上回る売上成長と利益の最大化を図っています。2015年3月期の売上収益は、主力製品の普及促進活動に注力した結果、前期比42.5%増の167億円となり、大きく伸ばしました。2016年3月期も40%以上の大幅な収益拡大を見込んでいます。また、2015年6月に韓国で緑内障・高眼圧症治療剤として開発したDE-111(一般名:タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩)の製造販売承認を取得するなど、現地ニーズに合致した競争力のある新製品の投入に向けての取り組みも加速しており、アジア市場におけるプレゼンスのさらなる強化と、アジア地域での眼科医療への貢献を目指します。

アジア事業 売上実績と2018年3月期目標



1. 米国メルク社から承継した眼科製品からの事業貢献

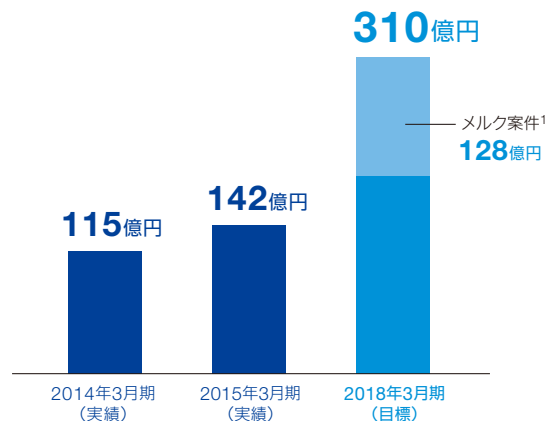
事業展開

欧州事業

緑内障、ドライアイ等の専門領域における強みを最大化し
持続的成長と収益性の向上を目指します。

欧州事業の2015年3月期の売上収益は、前期比23.5%増の142億円へと伸ばしました。欧州とその周辺地域は、米国メルク社から承継した眼科製品による売上拡大が最も期待できる地域であり、2016年3月期は約80%の成長率を見込んでいます。現在、40以上の国や地域への製品展開を踏まえて新たな組織体制づくりを進めており、当社の主力製品である緑内障・高眼圧症治療剤「タフルタン」も含め、緑内障領域における総合的な提案活動に取り組んでいます。また、欧州のドライアイ患者さんの未充足ニーズを満たす医薬品として、2015年7月以降順次、ドイツ、イギリスなど欧州各国で発売を開始した「アイケルビス」の早期市場浸透にも注力し、持続的成長と着実な収益化を目指していきます。

欧州事業 売上実績と2018年3月期目標



1. 米国メルク社から承継した眼科製品からの事業貢献

持続的な成長を支える組織構築および 人材パイプラインの強化を推進しています。

参天製薬は、2020年までの長期的な経営ビジョン実現のためには、「創造と革新」を担う人材の育成と組織構築が重要な要素だと考えています。事業の中長期的な成長を担う変革リーダーの育成とともに、グローバルでの意思決定および戦略実行を推進するため、研究開発、製品供給、財務などの主要機能におけるグローバルなマネジメント体制の強化に取り組んでいます。

2015年4月には、本社、サンテン・インク(米国の子会社)およびグローバル研究開発のアジア・欧州のマネジメント層において、基本理念に基づき期待する人材像が示された「サンテン・リーダーシップ・コンピテンシー(SLC)」とそれに基づく新人事制度を構築しました。SLCは、従業員一人ひとりの能力開発と、キャリアプラン策定に向けた基

軸となるものと位置付けており、今後アジアや欧州を含めて、グローバルで展開していく予定です。

当社は、持続的な成長を支える組織・人材の強化と育成に注力し、基本理念をもとにした活動を促進することによって、グローバル化に伴い多様化する社員を「One Santen, One Team」として結束させ、グループの総力をさらに強化し、経営ビジョン実現を目指します。

コーポレート・ガバナンスの強化とCSR活動の充実

参天製薬は、基本理念に基づき、真の顧客志向を追求し 患者さんと患者さんを愛する人たちをはじめとする社会への貢献を果たします。

参天製薬は、基本理念に基づいた事業活動を通じて、世界中の患者さんのQOL(Quality of Life:生活の質)向上に貢献することが、社会的使命であると考えています。

2020年までの長期的な経営ビジョンである「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現に向け、事業のグローバル展開に注力しています。このような中、特に、国や地域で異なる規制や承認制度等に対するコンプライアンスの強化を重視しています。患者さんに必要とされる医薬品・情報サービスを確実に、そして安全に届けるという、社会的使命を果たすためには、参天製薬グループ全体で基本理念を共有し、全社員が高い倫理観をもって事業活動を進めていくことが何よりも重要と考え

ています。コーポレート・ガバナンス機能のさらなる充実と強化に注力し、経営の透明性ならびに健全性を確保していきます。

また、企業が社会的責任(CSR)を果たすことは経営の前提であるという認識のもと、CSR活動の推進にあたっては、「参天企業倫理綱領」の「顧客」「社員」「社会」の3つの視点に基づき、7つの「CSR推進中核領域」を設定し、領域ごとに「CSR方針」を定め、CSR活動の充実を図っています。長期的な経営ビジョン実現に向けて、経営すなわち事業活動と、CSR活動を一体かつ継続的に推進することにより、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として、社会への寄与を果たしてまいります。

Glaucoma

Dry Eye

特集

欧州事業の拡大と成長の加速

～眼科のスペシャリティ・カンパニーとしての貢献～

参天製薬では、2020年までの長期的な経営ビジョンの実現を目指し、
「2014-2017年度中期経営計画」の基本方針において
欧州事業の成長と収益性の向上を目標に掲げ、
果敢なチャレンジを続けています。

Glaucoma

Dry Eye

欧州事業の実績と戦略

緑内障、ドライアイなどの専門領域での強みを生かして、眼科医療への貢献を果たします。

眼科のスペシャリティ・カンパニーとして 欧州市場でのプレゼンスを拡大

参天製薬では、2020年までの長期的な経営ビジョンである「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現に向けて、欧州事業の事業展開加速による収益化を重要な戦略と位置付けています。これまで、緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」(日本製品名:タプロス、一般名:タフルプロスト)を成長ドライバーとして、北欧・東欧・ロシアおよびドイツを中心として事業活動を推進してきましたが、2014年の米国メルク社の眼科製品承継により、当社の事業展開国・地域と製品ポートフォリオが大きく拡大し、今後の成長に向けた欧州事業の基盤が強化されました。

2015年3月期の欧州事業の売上収益は、前期比23.5%増の142億円へと伸長し、2016年3月期は、約80%の成長率を見込んでいます。成人患者において、人工涙液等で



効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症とした治療剤「Ikervis」(日本語読み:アイケルビス、一般名:シクロスポリン、開発品名:シクロカット)(以下、「アイケルビス」)の発売と、米国メルク社から承継した眼科製品による売上・展開地域の拡大をてこに、さらなる飛躍を目指します。

欧州の医療用眼科薬市場は、米国に次ぐ規模を有しています。また、欧州の医薬品の承認基準・品質基準は、アジアをはじめ、世界の様々な国で受け入れられています。欧州での事業活動が、眼科のスペシャリティ・カンパニーとしてグローバル市場で成長していくための成功モデルとなるよう、緑内障、ドライアイなどの専門領域における強みの最大化を図るとともに、組織・機能の強化を進めていきます。



執行役員 欧州事業統括
谷内 樹生

2018年3月期 欧州事業 売上目標

2015年3月期
欧州事業 売上実績

142 億円



310 億円

研究開発

欧州のドライアイ患者さんの未充足ニーズに応える「アイケルビス」の承認を取得しました。

独自のノバゾーブ技術を生かして、未充足ニーズに応える製品を創製

2015年3月に、成人患者において人工涙液等で効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症として、「アイケルビス」の販売承認を欧州で取得しました。2015年7月以降順次、ドイツ、イギリスなど欧州各国での販売を開始しており、製品の価値最大化を目指します。

欧州では、ドライアイ領域の点眼剤は一般用医薬品のみで、ドライアイに伴う重度の角膜炎に対しては、一部の専門医が院内調製の免疫抑制点眼液もしくは、シクロスポリン等で対応しており、適切な治療を受けられるまでに医療機関を転々とする患者さんも少なくありませんでした。「アイケルビス」は、欧州の患者さんのニーズを満たす可能性がある新薬なのです。



「アイケルビス」に用いられたサンテン・エス・イー・エスが開発したノバゾーブ技術¹は、難水溶性薬剤の点眼剤への応用や、眼表面へ薬剤を素早く広げることが可能とします。また、薬剤の眼表面での滞留やシクロスポリンの吸収を高める効果が期待されています。

参天製薬は、米国メルク社の眼科製品承継により広がった販売ネットワークを活用するとともに、日本におけるドライアイ治療のパイオニアとしての知見とノウハウを生かし、「アイケルビス」の市場浸透を図っていきます。

1. 乳化点眼剤に正電荷を付加する技術

患者さんの声に学び、ドライアイの専門医による診断基準づくりを支援

欧州では、治療薬の開発とともに、ドライアイの適切な診断・治療を普及させるガイドラインの策定や患者さんの声、治療実態などの情報共有が重要課題となっており、参天製薬は多くの活動に取り組んでいます。例えば、異なる

Message



パリ第6大学 眼科教授
キャンズ・ヴァン病院 眼科チエアマン

クリストファ・ブドワン 先生

欧州のドライアイ治療発展に向けた参天製薬の貢献に期待しています

私は、20年以上前からドライアイに伴う様々な症状が患者さんのQOLに与える影響を多数診てきました。欧州でのドライアイ治療には、主として人工涙液が用いられてきましたが、ドライアイに伴う重度の角膜炎に対する効果的な治療薬は存在せず、多くの患者さんが長年苦しんでいました。「アイケルビス」の上市によって、人工涙液では改善しないドライアイに伴う重度の角膜炎の治療が可能となります。また、「アイケルビス」に導入された参天製薬独自のノバゾーブ技術は、眼表面への点眼液の伸展を強化するとともに、眼表面の保護作用も期待されています。

ドライアイは、シェーグレン症候群²、マイボーム腺機能不全(MGD)など、様々な原因によって生じる疾患で、病気のメカニズムはそれぞれに異なります。今後も、眼科領域のスペシャリティ・カンパニーとして、治療の未充足ニーズを満たす優れた医薬品の開発を期待しています。

2. ドライアイと口腔乾燥症(ドライマウス)を主症状とし、全身乾燥症状を示す、中高年女性に多い自己免疫疾患

Research and Development

医療環境であっても各国共通の診断基準を設ける、ドライアイ専門医によるプロジェクトを側面から支援する活動や、欧州のドライアイ患者さんの実態を理解し、その声を眼科医に届ける活動など、ドライアイ治療の発展に貢献するために、医療関係者と連携した活動を進めました。多くの患者さんが、正しい診断を受けるまでに時間を要していることが明らかになるなど、ドライアイが患者さんのQOL (Quality of Life:生活の質) に及ぼす影響の大きさが示されました。

その他にも、眼科医に患者さんの生の声やニーズの理解を深めてもらうために、眼科学会で患者さんとの対話の場の設定や、患者団体のウェブサイト構築の支援など、患者さんのQOL向上に貢献する取り組みを進めています。

待ち望んでいた医薬品の創製に喜びを感じています

ドライアイは日常生活や、仕事を含めた社会生活の快適さに大きな影響を及ぼします。特に重症ドライアイの私たちの目は、電車や飛行機などの乗り物や、オフィスや映画館、スーパーマーケットなどのお店で空調(エアコン)にさらされており、風や乾燥によって目が充血するため、一日中痛みと違和感に悩まされています。私はシェーグレン症候群とドライアイの患者さんを支援する団体の代表として、ドライアイに関連する疾患の理解促進と、外的要因の改善に取り組んでいます。私たちは長い間、シクロスポリンが医療用眼科薬としてドライアイに伴う重度の角膜炎の治療に使える日が来ることを待ち望んでいました。遠くの病院に行かなくても、「アイケルビス」が身近で入手できること、そしてドライアイに伴う重度の角膜炎による痛みの頻度や程度を改善してくれることを期待しています。参天製薬の眼科医療への貢献に感謝するとともに、今後も疾患に対する研究に注力することで、QOLとQOV (Quality of Vision:視覚の質) の向上に向けた新製品を開発してくれることを望んでいます。

3. Association Française du Gougerot Sjögren et des Syndromes Secs



フランス・シェーグレン症候群患者会
(AFGS[®]) 代表

カトリーヌ・フォー さん

緑内障、ドライアイ領域を中心として 欧州市場全域でさらなるプレゼンス向上を図ります。

成長ドライバーである「タフロタン」等の 既存製品の市場浸透をさらに加速

参天製薬は2008年に発売した緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」を欧州事業での成長ドライバーと位置付け、緑内障・高眼圧症領域を中心に事業展開を推進してきました。「タフロタン」は、現在欧州地域を中心に40カ国以上で承認を取得しており、ドイツをはじめとする24カ国で自社販売しています。2015年1月には、配合点眼剤である緑内障・高眼圧症治療剤「タブティコム」（日本製品名：タブコム、一般名：タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩）を発売し、新たな主力製品として、「アイケルビス」とともに早期市場浸透を図っています。

米国メルク社からの製品承継による販売国増加 および製品ラインナップ強化の効果を最大化

米国メルク社から承継した眼科製品については、2014年12月から順次MA¹移管を進め、当社製品として販売を開始しています。現在、40以上の国と地域への製品展開



を踏まえて、上市の準備を着実に進めており、米国メルク社から承継した製品の生産物流、品質管理、医薬情報の提供、上市後の薬剤監視を含めた全ての活動を遂行できる組織体制づくりを推進しています。

今後は、米国メルク社から承継した眼科製品や、主力製品である「タフロタン」、新製品の「タブティコム」も含めた、緑内障領域における総合的な提案活動へと拡大さ



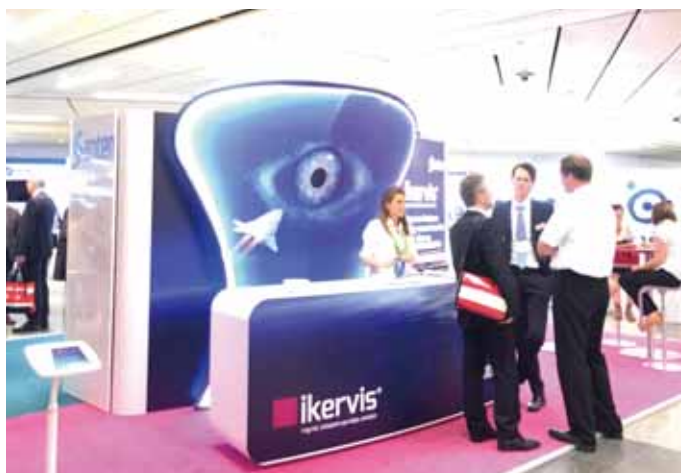
欧州事業における各地域の責任者

欧州事業における組織体制の強化

参天製薬では、イタリア、イギリス、アイルランド、スペイン、ポルトガル、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、スイス、オーストリアにて営業組織を順次立ち上げ、組織・人材の強化を図っています。各国の医療関係者の方々から、眼科領域に特化した当社の製品力や情報提供力への期待が高まっており、参天製薬は、その声に応える事業活動を着実に推進していきます。

Sales and Marketing

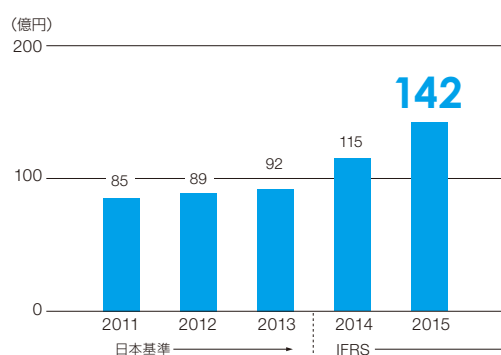
せ、患者さんのQOLの向上に貢献していきます。さらには、2015年7月に発売したドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症とした「アイケルビス」や、2015年2月に非感染性後眼部ぶどう膜炎を適応症として販売承認申請を行ったDE-109(一般名:シロリムス)などの市場展開における相乗効果の最大化に取り組み、欧州事業の成長を加速させます。



参天製薬は、欧州の現地ニーズに合致した当社の幅広い製品ラインナップを生かして、事業成長と収益性の向上を図り、2020年までの長期的な経営ビジョンの実現を目指します。また、眼科のスペシャリティ・カンパニーとして、当社MRによる質の高い医薬情報提供活動、欧州の眼科学会や患者団体の活動支援などを通じて、欧州の眼科医療の発展に貢献していきます。

1. Marketing Authorization:販売承認(日本での製造販売承認に相当する)

欧州事業売上収益





グローバル研究開発における
成果を生かしながら
新たな製品創製に向けた
変革を加速します。

常務執行役員
チーフ・サイエンティフィック・オフィサー (CSO)
兼 研究開発本部長
兼 サンテン・インク社長 兼 CEO
ナヴィード・シャムズ

Research & Development

患者さんのニーズを満たす製品創製の追求

参天製薬は、世界の患者さんのQOL (Quality of Life: 生活の質) 向上に貢献するために、眼科領域に特化した研究開発を進めています。特に、治療の未充足ニーズが高く、今後成長が期待できる「角結膜疾患」「緑内障・高眼圧症」「網膜・ぶどう膜疾患」に経営資源を集中し、競争力のある医薬品の創出に努めています。

「2014-2017年度中期経営計画」では、「製品創製」を基本方針の重要な柱と掲げており、未充足ニーズを満たす差別化された製品を迅速に創出するために、パイプラインの強化、成功確率の向上、開発期間の短縮に向けた様々な取り組みを進めています。特に、持続的成長に重要な後期臨床開発品の成功確率を高めるために、ネットワーク製品創製¹の推進や、トランスレーショナル・リサーチ²の活性化に注力しています。また、ドライアイ、緑内障、網膜疾患を中心として、当社の強みが生かせる疾患領域ごとに戦略を策定し、患者さんの治療ニーズに合致した差別化された製品創製に取り組んでいます。さらに、製剤化技術等を駆使したライフサイクルマネジメント³によって、既存品の市場価値最大化を図っています。

グローバル研究開発の進捗

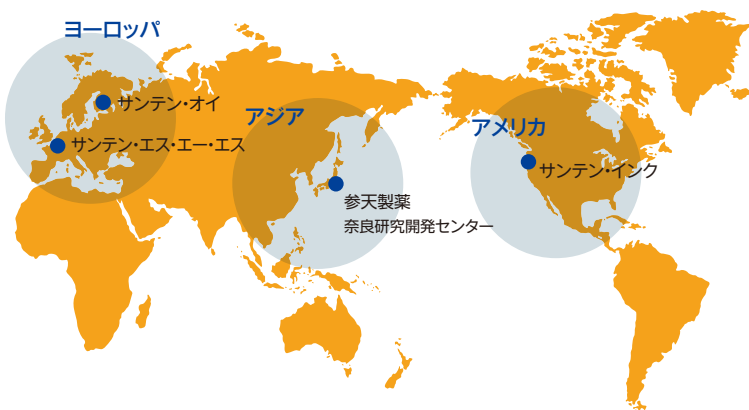
参天製薬は、日・米・欧にある研究開発拠点の連携を強化し、グローバルな製品開発を加速させています。2015年3月期には、その戦略が実を結び、今後の持続的成長につながる様々な成果を上げることができました。

角結膜疾患領域では、欧州において2015年3月に、成人患者において人工涙液等で効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症として、「Ikervis」(日本語読み: アイケルビス、一般名: シクロスポリン、開発品名: シクロカット) (以下、「アイケルビス」) の販売承認を取得し、2015年7月以降順次、ドイツ、イギリスなど欧州各国での販売を開始しています。独自のノバゾーブ技術⁴を用いて開発した「アイケルビス」は、欧州のドライアイ患者さんの未充足ニーズに応える初の医療用眼科薬となりました。

網膜・ぶどう膜疾患領域では、欧・米・アジアなどの約140施設でDE-109 (一般名: シロリムス) の第3相国際共同治験「SAKURA」⁵を実施し、欧州において2015年2月に非感染性後眼部ぶどう膜炎を対象として販売承認を申請しました。失明の主な原因の一つである非感染性後眼部ぶどう膜炎の治療法は限定的であり、局所もしくは全身

の副作用が少ない新たな治療法が求められています。非ステロイド剤であるDE-109により、治療の未充足ニーズに貢献できると期待しています。

緑内障・高眼圧症領域では、日本と欧州において、配合剤であるDE-111(一般名:タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩)の承認を取得し、日本では2014年11月に「タブコム」、欧州では2015年1月より順次、「タブティコム」として発売しています。



参天製薬のグローバル研究開発ネットワーク

2014年11月には、ネットワーク製品創製推進の一環として、シンガポール最大の国立眼科研究所SERI[®]との複数年度の戦略的共同研究を立ち上げました。「角結膜疾患」「緑内障・高眼圧症」「網膜疾患」に加えて、特にアジアで頻発する眼科疾患に対する新たな治療薬の開発を目的とし、すでに複数の眼疾患領域における研究活動を共同で進めています。参天製薬は、この共同研究を通じて、眼科のスペシャリティ・カンパニーとして培ってきた研究開発力と、SERIの多様なトランスレーショナル・リサーチ力を結びつけることで、世界中の患者さんへのさらなる貢献を目指していきます。

このような取り組みを着実に前進させることで、今後、患者さんの未充足ニーズを満たす差別化された製品創製をさらに加速させていきます。

1. 社外に存在する化合物や技術を積極的に活用し、製品創製に応用する手法
2. 基礎研究・臨床研究・診療をつなげて、医療発展に寄与する成果を効率的・効果的に実用化させる橋渡し研究
3. 一つの化合物を治療ニーズに合わせ、用法・用量・剤形、さらには配合剤など様々な工夫を加えることで、長期にわたり製品価値を高めること
4. 乳化点眼剤に正電荷を付与することで、点眼剤を眼表面に広く行き渡らせる技術
5. Study Assessing double-masked Uveitis treatment
6. Singapore Eye Research Institute: シンガポール眼科研究所(シンガポール・アイ・リサーチ・インスティテュート)



開発の進捗状況

角結膜疾患領域

開発コード	一般名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ			申請	承認
					1	2	3		
DE-089	ジクアホソルナトリウム	ドライアイ	Merck Sharp & Dohme Corp. (米国)	韓国	■				2013年10月発売
				中国	■				2012年1月
				アジア	■				2015年7月

緑内障領域

開発コード	一般名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ			申請	承認
					1	2	3		
DE-085	タフルプロスト	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	アジア	■				2010年3月発売
				中国	■				2011年1月
DE-111	タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本	■				2014年11月発売
				欧州	■				2015年1月発売
				韓国	■				2015年6月
				アジア	■				2015年3月
DE-117	未定	緑内障・高眼圧症	宇部興産と共同開発	米国	■				
DE-118	タフルプロスト	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本	■				2013年10月発売
				アジア	■				2015年6月
DE-090	ロメリジン塩酸塩	緑内障	MSD	日本	■				

開発コード 色の意味: ■グローバル品 ■日本(アジア)品

2015年8月4日現在

角結膜疾患領域

DE-089 (一般名:ジクアホソルナトリウム)

角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤であり、角結膜上皮障害治療剤「ヒアレイン」(一般名:ヒアルロン酸ナトリウム)とは異なる作用機序を有しています。2010年12月にドライアイ治療剤「ジクアス」として日本で発売しました。韓国では2013年10月に発売し、中国では承認申請中です。2015年7月にタイで承認を取得し、アジアで順次承認申請中です。

緑内障領域

DE-085 (一般名:タフルプロスト)

プロスタグランジン系緑内障・高眼圧症治療剤であり、ぶどう膜・強膜流出経路からの房水流出を促進することで、強力で安定した眼圧下降作用を示します。日本では、2008年12月に「タブロス」として発売しました。欧州では、2008年にドイツなどで発売し、アジアでは7カ国で発売しており、中国では承認申請中です。

DE-111 (一般名:タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩)

プロスタグランジン系緑内障・高眼圧症治療剤タフルプロストとβ遮断剤チモロールマレイン酸塩との配合剤です。日本で2014年11月に緑内障・高眼圧症治療剤「タブコム」として発売

しました。欧州では2015年1月より順次、緑内障・高眼圧症治療剤「タブティコム」として発売しています。2015年6月に韓国で承認を取得し、アジアで順次承認申請中です。

DE-117 (一般名:未定)

新規メカニズムのEP2作動薬です。米国で2015年2月にフェーズ2b試験を終了しました。

DE-118 (一般名:タフルプロスト)

プロスタグランジン系の緑内障・高眼圧症治療剤タフルプロストの防腐剤を含まない、1回使い切りタイプの製剤です。日本で、2013年10月に発売しました。2015年6月に香港で承認を取得し、アジアで順次承認申請中です。

DE-090 (一般名:ロメリジン塩酸塩)

視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤であり、日本でフェーズ2試験を実施しています。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤です。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有しています。日本ではMSD株式会社により片頭痛治療剤として販売されています。

Message



より良い治療を世界の患者さんに届けるために 参天製薬との共同研究が迅速な新薬創出につながると期待しています

眼の健康と見えることは、QOL (Quality of Life:生活の質)に不可欠な存在であるため、眼の疾患への治療はとて重要です。眼科領域での治療の進化に引き続き貢献するために、SERI¹と参天製薬は、アジア領域で頻発する眼科疾患に対する治療薬の開発を目的に、戦略的共同研究プロジェクトを立ち上げました。網膜疾患、緑内障、角膜炎などの特定領域の世界トップクラスの眼科医や研究者が最先端の研究を行うSERIと、いち早く新薬を世に出すことを通じて眼科医療の発展に貢献したい参天製薬のビジョンが合致し、研究者同士が国を超えて協働することで、新薬開発が実現できると確信しています。

両者の強みを生かしたコラボレーションにより、世界の患者さんへより良い治療を届けたいと願っています。

1. Singapore Eye Research Institute : シンガポール眼科研究所 (シンガポール・アイ・リサーチ・インスティテュート)

シンガポール眼科研究所 (SERI) エグゼクティブ・ディレクター
シンガポール国立眼科センター (SNEC) デビュティー・ディレクター

ティン・アウン先生

開発の進捗状況

網膜・ぶどう膜疾患領域

開発コード	一般名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ			申請	承認
					1	2	3		
DE-109	シロリムス	ぶどう膜炎	自社	米国	■				
				日本	■				
				欧州	■			2015年2月	
				アジア	■			2015年4月	
DE-120	未定	滲出型加齢黄斑変性	自社	米国	■				

サンテン・エス・エー・エス開発品

開発品名	一般名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ			申請	承認
					1	2	3		
Cyclokat シクロカット	シクロスポリン	ドライアイに伴う 重度の角膜炎	自社	欧州	■			2015年7月発売	
				米国	■				
Vekacia ベカシア	シクロスポリン	春季カタル	自社	欧州	■				
Catioprost カチオプロスト	ラタノプロスト	緑内障・高眼圧症	自社	欧州	■				
Cortiject コルチジェクト	デキサメタゾン バルミチン酸エステル	糖尿病黄斑浮腫	自社	米国	■			フェーズ1/2	

※カチオプロスト、コルチジェクトの2品は、事業性について評価中

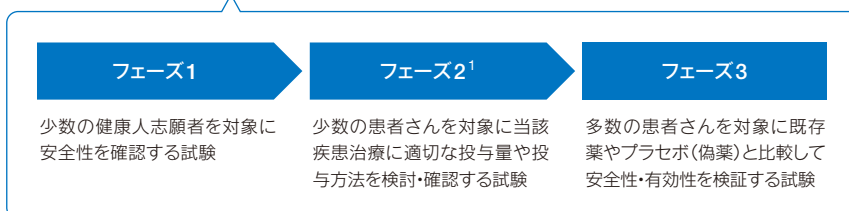
開発コード 色の意味: ■グローバル品

2015年8月4日現在

新薬の研究開発について



新薬候補化合物は、前臨床試験で安全性・有効性が確認された後、右記の臨床試験を経て、製造販売承認を受けることで、医療用医薬品として発売することができるようになります。



1. フェーズ2の初期段階で、POC(Proof of Concept)試験を実施し、安全性・有効性が評価される

網膜・ぶどう膜疾患領域

DE-109 (一般名:シロリムス)

免疫抑制作用などを有する硝子体内注射剤です。欧州で2015年2月に、アジアで2015年4月に、非感染性後眼部ぶどう膜炎を対象として、承認申請を行いました。米国、日本ではフェーズ3試験を実施中です。

DE-120 (一般名:未定)

VEGFおよびPDGFの阻害作用(デュアル阻害剤)を有する硝子体内注射剤です。米国で、フェーズ2a試験を実施中です。

サンテン・エス・エー・エス開発品

シクロカット

Cyclokat (一般名:シクロスポリン)

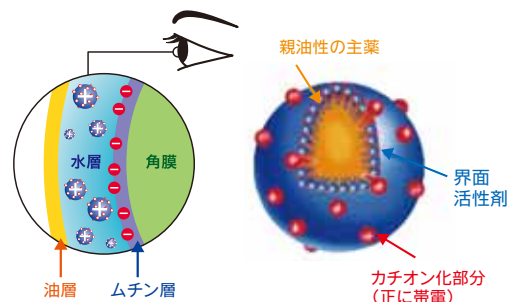
免疫抑制作用により、重症ドライアイの他覚所見および自覚症状を改善する乳化点眼剤で、ノバゾーブ技術により組織移行性を高めた製剤です。欧州で2015年7月に、成人患者において、人工涙液等で効果が不十分なドライアイ患者の重度の角膜障害治療用点眼剤「アイケルピス」として発売しました。米国ではフェーズ2試験を終了しています。

ヘカシア

Vekacia (一般名:シクロスポリン)

免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤で、ノバゾーブ技術により組織移行性を高めた製剤です。欧州でフェーズ3試験の段階にあります。

ノバゾーブ技術



乳化点眼剤に正電荷を付与することで、プラスに帯電した乳化点眼剤をマイナスに帯電した眼表面に素早く広げ、標的組織に行き渡らせる技術。

カチオプロスト

Catioprost (一般名:ラタノプロスト)

プロスタグランジンF_{2α}誘導体の、緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤で、現在、事業性評価中です。

コルチジェクト

Cortiject (一般名:デキサメタゾンパルミチン酸エステル)

抗炎症作用を有する硝子体内注射剤で、現在、事業性評価中です。

Message



患者さんの未充足ニーズを満たすために 参天製薬独自のノバゾーブ技術の可能性を追求していきます

「アイケルピス」は、乳化点眼剤に正電荷を付加する参天製薬独自のノバゾーブ技術を駆使したことにより、マイナスに帯電した眼表面に、有効成分であるシクロスポリンが素早く広がり行き渡るとともに、眼表面の保護・治癒作用の向上を実現することができました。これにより、ドライアイに伴う重度の角膜炎で苦しむ患者さんに新たな治療法を提供することが可能となりました。このノバゾーブ技術は、ドライアイ領域だけでなく、アレルギーや緑内障・高眼圧症領域などへも幅広く応用できる可能性を秘めた技術であり、参天製薬が眼科のスペシャリティ・カンパニーとして持続的成長を遂げる一助となると期待しています。

サンテン・エス・エー・エス グローバル創削 ジェネラル・マネージャー

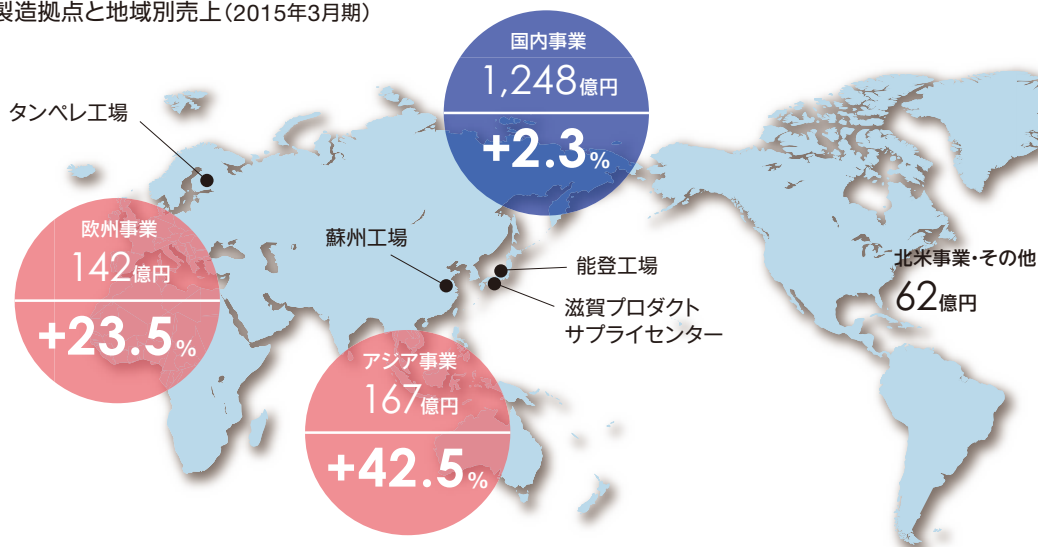
ジャン・セバスチャン・ガリグ

事業別概況

世界の患者さんと患者さんを愛する人たちへ、
必要とされる医薬品をお届けします。

参天製薬は、2020年までの長期的な経営ビジョンとして「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を掲げ、グローバルトップ3を目指して事業成長を加速しています。

製造拠点と地域別売上(2015年3月期)



【製品供給・品質保証】

グローバルに競争できる 高品質の製品を供給

参天製薬は、世界の医薬品市場における環境変化に対応し、成長を続けるために、高い品質とグローバルに通用するコストの実現に注力しています。市場への安定供給に加えて、品質保証体制の維持・強化により、顧客ニーズに応えるグローバル・サプライチェーンの最適化を目指します。

Domestic Operations

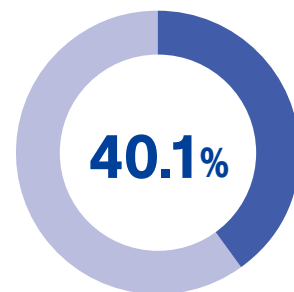
[国内事業]

医療用医薬品 眼科薬

2015年3月期売上収益

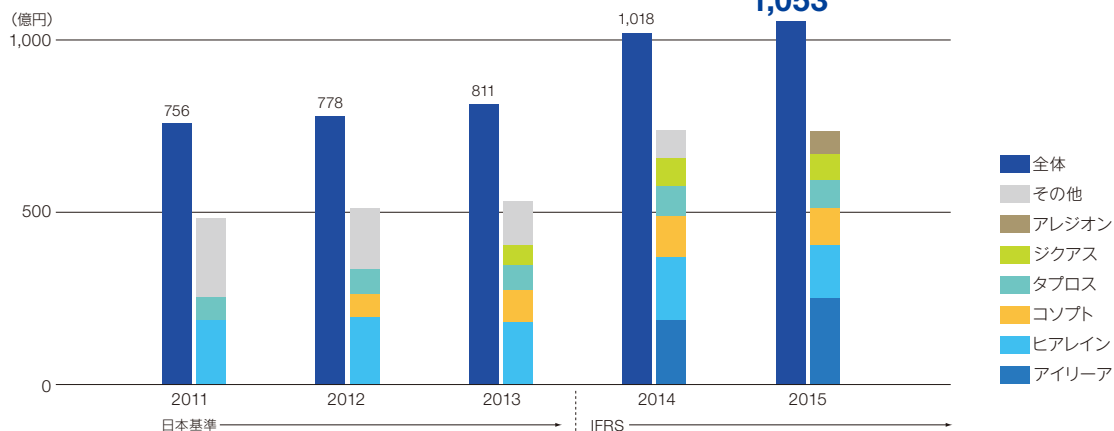
105,345百万円 **+3.5%**

国内医療用眼科薬市場シェア
(2015年3月期)



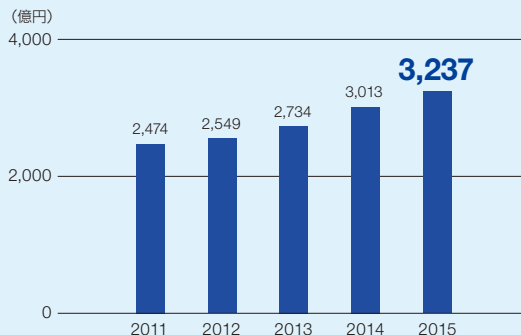
2015年3月期の国内医療用眼科薬市場は、薬価改定の影響はありましたが、網膜疾患治療剤の伸長などにより、前期比7.4%増の3,237億円となりました。参天製薬は、医師や医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及活動を展開した結果、国内医療用眼科薬の売上収益は前期比3.5%増の1,053億45百万円となりました。また、国内医療用眼科薬市場では、40.1%とトップシェアを堅持しています。

医療用眼科薬の売上収益および国内上位6製品の売上収益

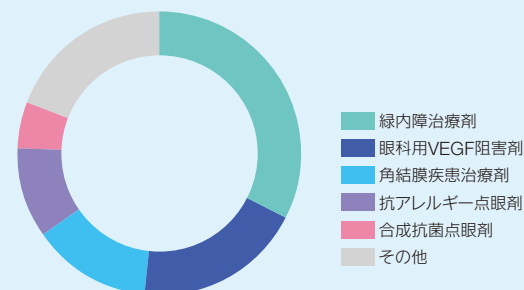


医療用眼科薬市場全体の動向

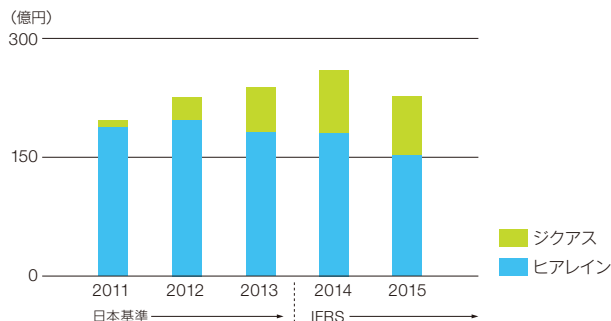
市場規模



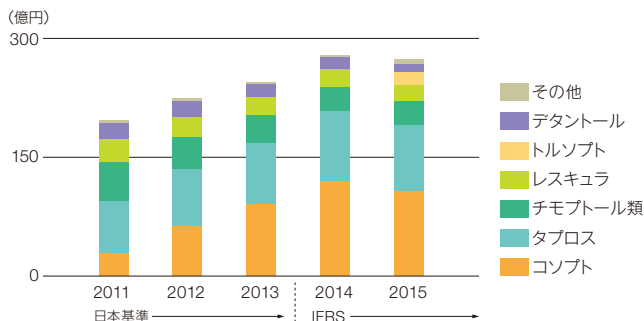
医療用眼科薬市場における領域別構成比 (2015年3月期)



主な角結膜疾患治療剤の売上収益



緑内障治療剤の売上収益



角結膜疾患治療剤

市場動向

ドライアイなどに伴う角結膜疾患治療剤の市場規模は、前期と同等の442億円となりました。ドライアイは、涙の量が不足することや、涙の成分が変化することにより、目の表面に障害(傷)が生じる病気です。ドライアイの治療には、定期的な通院による診断と適切な治療が必要ですが、その認識が十分浸透していないため、自覚症状がありながら未治療の患者さんが多いのが現状です。さらに、デジタル機器の普及、コンタクトレンズ装用者の増加、高齢化などが要因となり、ドライアイの患者さんは増加傾向にあり、今後も市場拡大が続くと予想されます。

営業概況

2015年3月期は、当社の主力製品である「ヒアレイン点眼液」の売上収益は、薬価改定や後発品促進策の影響により、前期比15.7%減の153億16百万円となりました。また、2010年12月に発売した「ジクアス点眼液」の売上収益は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により、前期比5.3%減の74億19百万円となりました。厳しい市場環境下において、治療薬がまだ十分とは言えないドライアイ治

療に新たな選択肢を提供するとともに、患者さんや医療現場に対するドライアイ疾患啓発活動に継続的に注力した結果、角結膜疾患治療剤市場における当社のシェアは65.6%と、引き続き強固な地位を維持しています。当社では、今後も啓発活動を継続していくことによって、日本で2,200万人とも推定される潜在的な患者さんの通院や、すでに通院されている患者さんへの適切な継続治療を促し、ドライアイ治療の認知拡大と角結膜疾患領域でのさらなるプレゼンス強化につなげていきます。

緑内障治療剤

市場動向

緑内障治療剤の市場は前期比0.9%増の1,057億円となりました。国内医療用眼科薬市場で約33%を占めており、最大規模となっています。緑内障は、眼圧の上昇などによって視神経が傷害され、視野欠損や失明を引き起こす病気で、現在、日本における中途失明原因の第1位にあげられています。疫学調査結果から、潜在的な患者さんも多いと推測されており、早期発見および早期治療が課題となっています。高齢化などによる患者さんの増加により、市場は今後も拡大していくことが見込まれます。

ヒアレイン点眼液 (1995年発売)

日本初の角結膜疾患治療剤。保水性に富み、涙液層の安定性を増大させる点眼液です。角膜上皮細胞の接着、伸展を促進し、角膜上皮の創傷の治癒を促進します。



ジクアス点眼液 (2010年発売)

ドライアイ治療に対し新規の薬理作用を有する世界初のP2Y₂受容体作動薬。涙の成分であるムチン¹や水分の分泌を促進し、涙の状態を改善することで角結膜上皮の障害を改善します。

1. 角膜を覆っている水層とムチン層に存在する高分子糖タンパク質

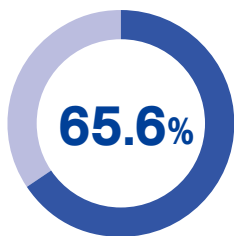


タブロス点眼液 (2008年発売)

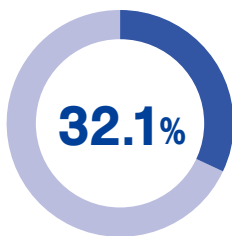
強力な眼圧下降作用を有するプロスタグランジン関連の緑内障治療剤です。日本人に最も多い正常眼圧緑内障に注目した初めての治験を実施し、その臨床データを取得しています。



角結膜疾患治療剤
市場シェア



緑内障治療剤
市場シェア



営業概況

主力製品の「タプロス点眼液」、「コンプト配合点眼液」は市場浸透が順調に進み、数量ベースでは計画通り推移しました。しかしながら、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響によって、「タプロス点眼液」の売上収益は前期比7.0%減の83億29百万円、「コンプト配合点眼液」の売上収益は前期比9.8%減の106億89百万円となりました。2014年11月には患者さんの利便性の向上につながる「タプコム配合点眼液」を新発売するなど、治療ニーズへのさらなる対応を進めた結果、緑内障治療剤市場における当社のシェアは、32.1%とトップを堅持しています。

2016年3月期は、主力製品の「タプロス点眼液」、「コンプト配合点眼液」および「タプコム配合点眼液」の価値最大化と市場浸透に注力していきます。さらに、「レスキュラ点眼液」、「デタントール点眼液」などの有用性についても引き続き訴求しながら、今後も幅広い製品ラインナップを生かし、緑内障に関する最新の情報や処方提案など、医療ニーズに適合した医薬情報提供活動を積極的に推進することで、緑内障治療剤領域でのプレゼンス向上に努めていきます。

Message



日本から世界へ、患者さんの立場に立った眼科医療の発信に期待しています

参天製薬は点眼薬を中心に、長年にわたり眼科疾患に対する患者さんのQOV、QOL²の維持、回復に貢献しており、さらに大学などとの共同研究も推進し、患者さんと医療従事者との理想的な関係の発展に貢献してきました。QOV、QOLが低下することは患者さんにとって非常に深刻な状況で、緑内障のような慢性進行性疾患では、特に患者さんの視点に立った製剤開発が求められます。点眼治療は、患者さんの点眼行為に依存した特殊な治療法であり、とりわけ緑内障では非常にアドヒアランス³が悪いことが知られています。今後も医療従事者と患者さんのニーズを的確に把握し、薬剤の有効性、安全性の追求はもちろん、製剤の使い心地にも多くの視点から改善を進め、点眼へのアドヒアランスを上げる活動に力を注いでくれることを期待します。

2. QOV (Quality of Vision): 視覚の質、QOL (Quality of Life): 生活の質
3. 患者さんが治療方針の決定に関わり、正しく薬を使用すること

東京大学大学院医学系研究科 外科学専攻 眼科学教授

相原 一 先生

コンプト配合点眼液 (2010年発売)

「コンプト配合点眼液」は、代表的な緑内障治療剤である、ドルゾラミド塩酸塩とチモロールマレイン酸塩を配合させることにより、1剤で強力な眼圧下降効果を可能にします。

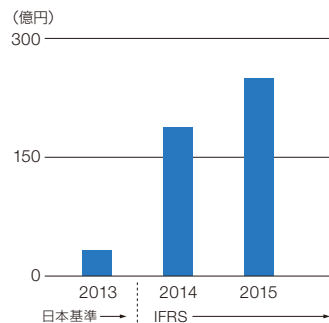


タプコム配合点眼液 (2014年発売)

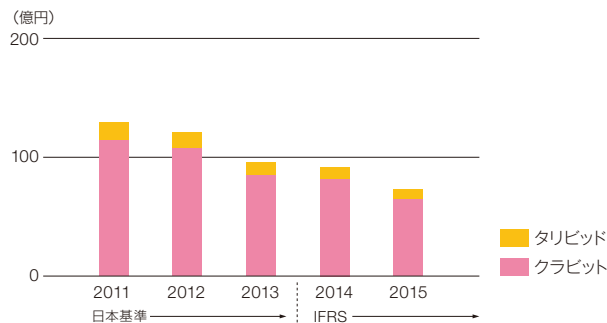
「タプコム配合点眼液」は、「タプロス点眼液」の有効成分であるタフルプロストと、チモロールマレイン酸塩を含有する配合点眼剤です。1剤で強力な眼圧下降効果を発揮します。



「アイリーア」の売上収益



主な合成抗菌点眼剤の売上収益



網膜疾患治療剤

市場動向

網膜疾患治療剤領域には、滲出型加齢黄斑変性や、糖尿病に起因する網膜症や黄斑浮腫など、未充足ニーズの高い疾患が多く存在しています。国内の網膜疾患領域市場は、高齢化などを背景として急速に成長しており、滲出型加齢黄斑変性などを適応症とした眼科用VEGF阻害剤の市場規模は、前期比42.6%増の616億円となっています。

営業概況

2012年11月に発売した眼科用VEGF阻害剤「アイリーア硝子体内注射液」は、網膜疾患領域の治療ニーズに応える新製品として、引き続き大幅な伸長を続けています。2015年3月期の売上収益は、適応症追加の効果もあり、前期比32.7%増の248億86百万円となりました。眼科用VEGF阻害剤市場における同剤のシェアは48.8%となり、市場の成長をリードしています。2016年3月期も、さらなる市場浸透に向けて、製造販売元のバイエル薬品株式会社とともに、質の高い医薬情報提供活動を積極的に推進していきます。

合成抗菌点眼剤

市場動向

合成抗菌点眼剤の市場規模は前期比8.2%減の168億円となりました。合成抗菌点眼剤市場は近年、縮小傾向にあります。一因としては、白内障などの手術後における抗菌剤の投与期間の短縮があげられます。

営業概況

2015年3月期は、薬価改定や後発品促進策の影響などにより、「クラビット点眼液」「タリビッド点眼液」両剤を合わせた売上収益は、前期比20.5%減の72億61百万円となりました。合成抗菌点眼剤市場における当社のシェアについては、前期に比べ減少し54.0%となりましたが、マーケットリーダーとしての地位を堅持しています。

薬物動態の研究の進歩に伴い、抗菌点眼剤においても高濃度化が望まれていた中、レボフロキサシンの高い水溶性を生かした高濃度製剤「クラビット点眼液1.5%」を2011年6月に発売しています。臨床試験において高い有効性が確認されており、上市後の臨床現場でも主症状の早期消失が評価されています。

アイリーア硝子体内注射液 (2012年発売)

滲出型加齢黄斑変性などの原因物質の一つであるVEGFの働きを抑える作用を持つ医薬品です。硝子体に注射することで新生血管の成長を抑えることにより、症状を改善します。



「アイリーア」の適応が拡大

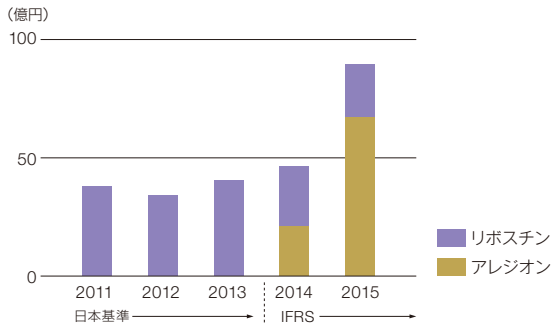
2015年3月期に、「病的近視における脈絡膜新生血管」および「糖尿病黄斑浮腫」で、また2015年6月に「網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫」での適応追加承認を取得し、適応症が4つとなりました。

クラビット点眼液 (2000年発売)

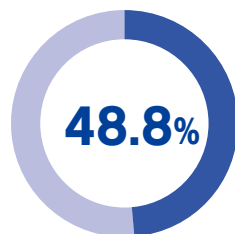
「タリビッド点眼液」の主成分オフロキサシンから光学活性体を単離したレボフロキサシンを主成分とするニューキノロン点眼液で、極めて強い抗菌力と眼組織内移行性を有します。



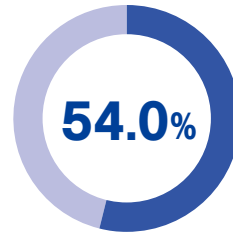
主な抗アレルギー点眼剤の売上収益



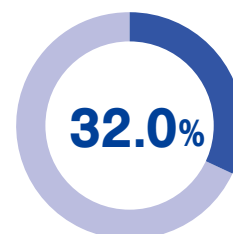
眼科用VEGF阻害剤市場シェア



合成抗菌点眼剤市場シェア



抗アレルギー点眼剤市場シェア



抗アレルギー点眼剤

市場動向

抗アレルギー点眼剤の市場規模は前期比21.4%増の339億円となりました。アレルギー性結膜炎の原因の一つであるスギ花粉の飛散が、前期と比べ多かったことが主な要因です。

営業概況

2015年3月期は、主力製品の「リボスチン点眼液」とともに、2013年11月に発売した「アレジオン点眼液」の市場浸透に注力した結果、両製品を合わせた売上収益は、前期比93.2%増の89億61百万円へと大幅に伸長し、抗アレルギー点眼剤市場における当社のシェアは32.0%へとさらに高まりました。

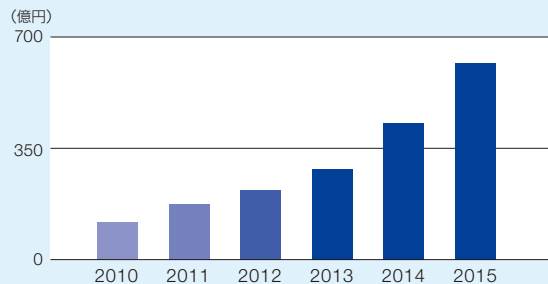
2016年3月期は引き続き、新たな治療選択肢の提供が可能となった強みを生かして、かゆみや充血といった通年性および季節性の様々なアレルギー症状を抑えることで、患者さんが快適な生活を取り戻せることを積極的に訴求し、売上およびシェアのさらなる拡大を目指します。

CLOSE UP

網膜疾患領域の市場成長

網膜疾患領域市場は、各国で拡大を続けており、日本においても2012年11月に「アイリーア」が発売されて以降、年率50%前後と大きく伸長しています。現在、日本における中途失明原因の第2位が糖尿病網膜症、第4位が加齢黄斑変性症であり、高齢化などに伴い患者さんが増えるとともに、治療ニーズはますます高まっています。「アイリーア」は、滲出型加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、病的近視における脈絡膜新生血管、糖尿病黄斑浮腫と、発売以降4つの網膜疾患へと適応を拡大し、治療ニーズを満たす製品のひとつとなっています。

日本での眼科用VEGF阻害剤市場規模



出典：IMS-JPMデータに基づく参天製薬分析

タリビッド点眼液 (1987年発売)

世界で初めてのニューキノロン系抗菌点眼剤です。第一三共株式会社で新規に合成されたオフロキサシンを主成分とする合成抗菌剤で、広い抗菌スペクトラムと強い抗菌活性を有します。



リボスチン点眼液 (2001年発売)

ヒスタミンH₁受容体に対する親和性および特異性が高く、かつ作用持続時間の長い抗ヒスタミン作用を有するH₁プロツカ点眼剤です。

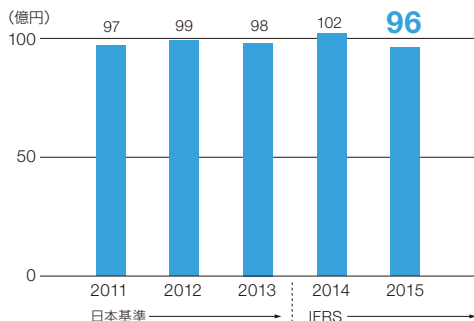


アレジオン点眼液 (2013年発売)

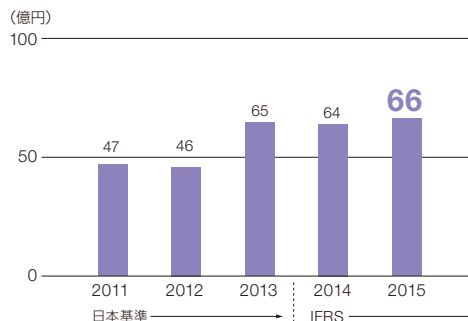
H₁拮抗作用と膜安定化作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤です。アレルギー性結膜炎の主症状である目のかゆみと充血などの症状を抑えます。



医療用抗リウマチ薬 売上収益



一般用医薬品 売上収益



医療用医薬品 抗リウマチ薬

2015年3月期売上収益

9,568百万円 **-5.9%**

営業概況

2015年3月期の医療用抗リウマチ薬の売上収益は、前期比5.9%減の95億68百万円となりました。生物学的製剤等を除いた従来の疾患修飾性抗リウマチ薬(DMARDs¹)市場における当社のシェアは、37.0%とトップクラスの地位を維持してきました。

参天製薬は、2015年5月に、抗リウマチ薬事業の事業承継に関する契約をあゆみ製薬、昭和薬品化工株式会社と締結しました。当社の抗リウマチ薬事業の権利義務は、会社分割の方法により、あゆみ製薬に8月3日付で承継されました。

1. 関節リウマチの病因の一つとされる免疫異常を是正することにより炎症を沈静化させ、抗リウマチ効果を発現させる、原因療法に一步近づいた薬剤の総称

一般用医薬品

2015年3月期売上収益

6,638百万円 **+3.6%**

市場動向

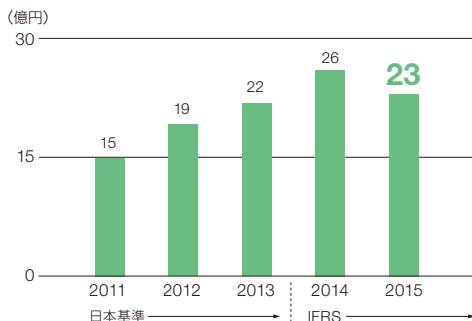
2015年3月期の一般用眼科薬市場は、花粉飛散によるアレルギー需要の高まりや、訪日海外旅行者による購入などの影響もあり、前期と比べ5.1%増の589億円となりました。

営業概況

国内トップクラスの目薬ブランドである「サンテFX」シリーズ、目のかすみなどに効果を発揮する「サンテ40」シリーズなどを中心とした製品展開を行っています。2015年3月期の売上収益は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響があったものの、「サンテ」シリーズ全体のブランド価値向上のための販売促進活動に注力したことや、高価格品が堅調に推移したことなどにより、前期比3.6%増の66億38百万円となりました。今後も市場では厳しい競争が予想されますが、2014年3月期に発売した「サンテ ポーティエ」や2015年3月期に発売した「ソフトサンティアひとみストレッチ」などを中心とした販売促進に注力し、引き続き新規市場の構築と売上拡大を目指していきます。



医療機器 売上収益



医療機器

2015年3月期売上収益

2,284百万円 -13.0%

市場動向

当社の医療機器事業は、白内障手術領域における眼内レンズに特化した事業を展開しています。近年、眼内レンズの需要は、小さな切開創から挿入できるフォールダブルレンズが主流となっています。

営業概況

当社では、米国子会社のアドバンスド・ビジョン・サイエンス・インクが創製し、高屈折率の新しい素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」シリーズを2008年から販売しています。2009年には、より自然な見え方が期待できる「エタニティー ナチュラル」を、2013年には製品形状に工夫を施した「エタニティー ナチュラル ユニ」を発売しました。また、眼内レンズを挿入するためのインジェクターについても、2011年には、より小さな切開創から眼内レンズの挿入を可能とするインジェクター「アキュジェクト」を発売し、2015年には、セッティングの簡便性を高めた「アクセス」、「アクセス イーズ」を発売するなど、製品ラインナップの拡充に努めています。2015年3月期の医療機器の売上収益は競合の影響などもあり、前期比13.0%減の22億84百万円となりました。今後も、「エタニティー」シリーズの「透明性に優れた高品質なレンズ」という製品コンセプトを強みとして、医療機器事業のさらなる成長を目指します。

TOPICS

一般用医薬品「サンテ」シリーズのブランド価値の向上を目指して話題性の高いキャンペーンを積極的に展開

参天製薬は、国内の一般用医薬品市場で強固な地位を確立している「サンテ」シリーズのブランド価値をさらに高めるため、製品ラインナップの充実を図るとともに、販売促進キャンペーンを積極的に展開しています。2016年3月期は、世代を超えて愛されている少女漫画や、人気アニメのコンテンツを生かし、製品イメージと連動させた企画を打ち出し、大きな注目を集めています。また、発売50周年を迎えた「サンテドウ」のパッケージ・処方方を一新するなど、時代や市場ニーズを踏まえたりリニューアルとブランドのさらなる市場浸透に取り組んでいます。

「サンテ40」シリーズと、人気少女漫画『ガラスの仮面』のコラボレーション企画。一日中目を使い続けた後の夕方に目のかすみなどを感じる「夕方老眼」の啓発を展開。



「サンテFX」シリーズと、人気アニメ『進撃の巨人』のコラボレーション企画。「サンテ目薬シリーズ」が、現代人を悩ませる「疲れ目」と闘うパートナーであることを訴求。

©陳山創・講談社 / 「進撃の巨人」製作委員会

「サンテPC」と、アニメ映画『攻殻機動隊 新劇場版』のコラボレーション企画。ブルーライトなどの光ダメージに着目して処方設計した製品特長を訴求。



©士郎正宗・Production I.G / 講談社・「攻殻機動隊 新劇場版」製作委員会



アクティブなシニア世代に人気のある阿川佐和子さんをイメージキャラクターに起用し、「新サンテドウα」の新発売キャンペーンを展開。

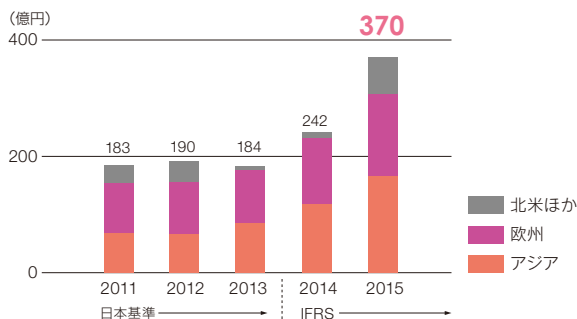
Overseas Operations

[海外事業]

海外事業全体



海外売上収益



参天製薬は、2020年までの長期的な経営ビジョンである「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現に向けて、欧州・アジアでの事業成長を「2014-2017年度中期経営計画」の基本方針の柱の一つに位置付け、海外事業の成長を加速しています。2015年3月期の海外全体の売上収益は、円換算ベースで前期比53.0%増の369億95百万円となりました。なお、海外医療用眼科薬の売上収益は、前期比32.1%増の307億14百万円となりました。

欧州事業

参天製薬は、北欧・東欧・ロシアおよびドイツを含む欧州地域を中心とした30カ国以上で販売・マーケティング活動を展開してきましたが、米国メルク社の眼科製品承継などに伴い、欧州事業のさらなる拡大を目指しています。

成長ドライバーである緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」(日本製品名:タプロス、一般名:タフルプロスト)については、欧州地域を中心に40カ国以上で承認を取得し、ドイツをはじめとする24カ国で自社販売しています。また、成人患者において人工涙液等で効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症とした新製品の「Ikervis」(日本語読み:アイケルビス、一般名:シクロスポリン、開発品名:シクロカット)や、配合点眼剤である緑内障・高眼圧症治療剤「タプティコム」(日本製品名:タプコム、一般名:タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩)の早期市場浸透を目指します。

米国メルク社から承継した眼科製品については、2014年12月から順次移管を進め、参天製薬製品としての販売を開始しています。現在、40以上の国と地域への製品展開を踏まえて、欧州事業の組織体制を強化していく予定です。

製品ラインナップと販売地域が拡充していく中で、新製品の上市成功や既存製品の収益拡大に向けた各国・地域での活動を加速していきます。

Message



より良い治療機会の創出に向けて、参天製薬にできることを追求します

2013年10月にホーチミン事務所が設立され、現在は40名のスタッフとともに、ベトナムにおける眼科医療への貢献を目指して活動しています。医療機関や医師が不足しているベトナムでは、医療環境の改善に向けた取り組みが始まっており、参天製薬のホーチミン事務所では、眼科学会と連携し、緑内障・ドライアイの疾患啓発活動や、地方都市での若手眼科医育成プログラムを支援するなど、ベトナムの眼科医師のベストパートナーを目指した活動に注力しています。また、日本をはじめアジア・欧米各国とベトナムの先生方との学術交流の場を通じて、日常診療に役立つ情報を提供し、参天製薬のプレゼンス向上を目指します。

ホーチミン事務所 兼 アジア事業部 ベトナム担当マネージャー

吉田 智行

アジア事業

参天製薬は、眼科医療に貢献する「アジアNo.1」を目指して、中国・韓国・ベトナムを重点国と位置付け、アジア市場全体でのプレゼンスの拡大を図っています。

アジアの成長を牽引する中国では、2020年まで年率20%前後の成長が続く見込みです。当社は1980年代に輸出を開始し、2005年に現地法人として参天製薬(中国)有限公司を設立して以来、中国での参天ブランドの浸透を図ってきました。2013年9月には、中国第二の現地法人参天医薬販売(蘇州)有限公司を設立し、中国でのさらなる成長に向け、製品の市場浸透に取り組んでいます。

韓国では2010年に自社販売を開始し、自社MRによる医薬情報提供活動を実施しています。主力製品である「タフロタン」、「ジクアス点眼液」などに、米国メルク社から承継した緑内障・高眼圧症治療剤が加わることで拡大した製品ラインナップにより、一層のプレゼンス向上を目指します。

さらに、2013年12月に、シンガポールに現地法人を設立し、アセアン地域統括機能の強化を図っています。すでに現地法人がある台湾に加え、タイやマレーシア、フィリピンにも、現地法人を順次設立するなど、事業展開の強化を進めています。

また、米国メルク社の眼科製品承継に伴い、シンガポール、マレーシアでは自社販売を2015年より開始し、緑内障・高眼圧症治療剤「コソプト」「トルソプト」「チモプトール」などをはじめとする製品の市場浸透を図っています。加えて、フィリピンでは、ドライアイ治療剤「カチオノーム」を発売するなど、各国・地域での活動強化により、アジアNo.1の実現を目指します。



第30回アジア太平洋眼科学会(APAO 2015)

Message



参天製薬は重要なパートナーです

タイの医療制度は、国民皆保険(UHC¹)のもと、全国民がいずれかの医療保障を受けられる段階にまで発展しています。保険適応の中心は初期治療が対象ですが、心臓弁膜手術、腎臓透析などの高度な治療や、白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、黄斑変性症などの眼科疾患にも広がっています。一方、タイでは急速な高齢化、労働移民の増加、医療サービスの細分化などにより国内の医療リソースの配分と活用における新たな課題に直面しています。

バンコクなどの大都市では良質な眼科医療が受けられますが、より効果的な治療に対するニーズが高まっています。そのため、新しい技術や知見が積極的に導入されており、患者さんの安全と安心を重視した最先端の治療が広がりつつあります。しかし、全国民への医療は未だ課題も多く、効果的で良質な治療を受けられるかは経済状況に左右されます。富裕層が増えつつある一方、過半数の国民はUHCに依存しているのが現状です。

参天製薬は長い歴史と将来性を持つ、信頼できる眼科のスペシャリティ・カンパニーと認識しています。私は参天製薬を眼科医療と眼科教育における重要なパートナーと考えており、効果的で安全かつ副作用の少ない革新的な新薬の開発を進めていることに大きな可能性を感じています。また、アセアン経済共同体(AEC²)圏内の眼科領域で、効果的な薬剤を供給することで、眼科医療の発展に貢献してほしいと考えています。AEC、そして世界中の多様化するニーズに応えるための積極的なアプローチを期待しています。

1. Universal Health Care
2. ASEAN Economic Community

チュラロンコン大学
キング・チュラロンコン・メモリアル・ホスピタル 眼科学部長兼准教授
タイ緑内障学会、タイ眼科学会 理事長
アジア太平洋緑内障学会 副理事長
アジア閉塞隅角緑内障クラブ 理事長

プリン・ロジャナポングパン 先生



製薬企業としての
社会的責任を果たすために、
グローバルでCSR活動の
充実を図っていきます。

常務執行役員
企画本部担当 兼 CSR・業務本部長

佐藤 正道

CSR

参天製薬は、「天機に参与する」という基本理念に基づいた事業活動を通じて、優れた製品・サービスを提供することにより、世界の患者さんのQOL(Quality of Life:生活の質)向上に貢献し続けます。

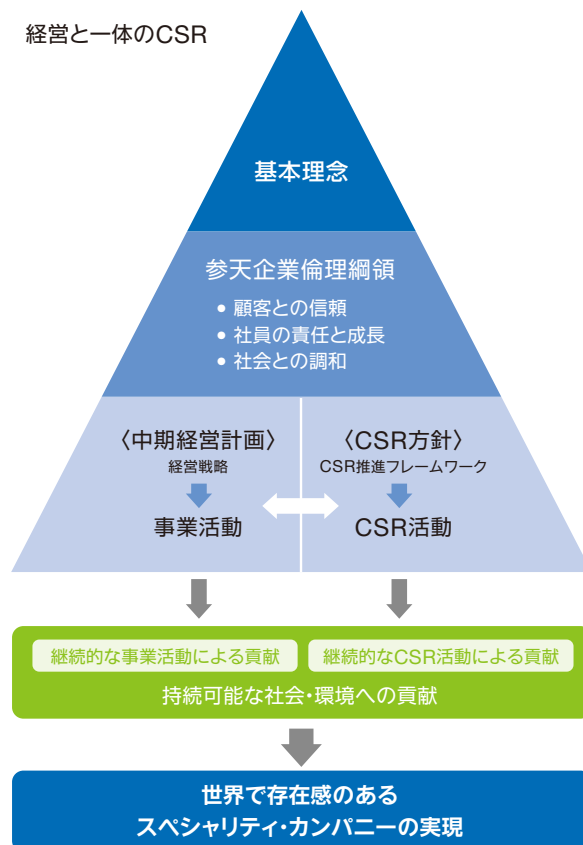
経営と一体のCSR

1890年の創業以来、125年にわたる歴史において大切にしてきたこと。それは、参天製薬の基本理念「天機に参与する」の中で表現されています。いかなる時代にあっても「創造と革新」を常に追求し、患者さんと患者さんを愛する人々たちを中心として社会に貢献することが当社の使命です。

当社は、事業活動を通じて社会的責任を果たしていくため、基本理念のもとに「組織の原則」と「個人の行動原則」を定めるとともに、具体的な行動の規範として「企業行動宣言」と「行動規範」から成る「参天企業倫理綱領」を制定し、全社員への浸透を図っています。この倫理綱領は、「顧客との信頼」「社員の責任と成長」「社会との調和」の3つの視点から法令遵守に留まらない高い倫理観と誠実な行動を全社員に求めています。

当社は2020年までの長期的な経営ビジョンである「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を目指して、グループが一体となって事業活動を推進しています。基本理念に基づき、優れた製品・サービスを提供することにより、世界の患者さんのQOL向上に貢献することをCSR活動の基本方針としています。当社では、このよう

経営と一体のCSR



に事業活動とCSR活動を一体的かつ継続的に推進することにより、持続可能な社会ならびに環境への貢献を果たし、その結果として長期的な経営ビジョンが実現すると考えています。

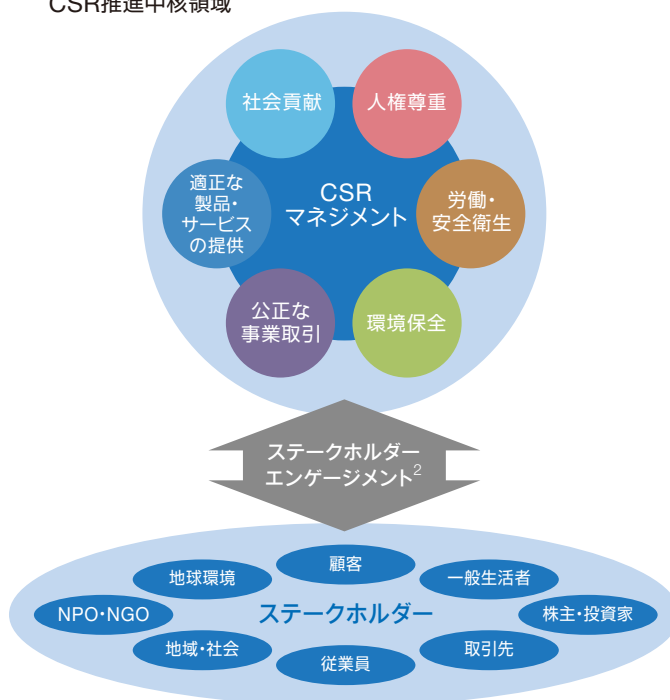
今後は、グローバル化をさらに加速していく中で、基本理念の共有を徹底しながら、コンプライアンスの強化を図ることが重要であると考えており、様々な課題を検証・特定し、グループ全体での対応を可能とする体制とシステムづくりを進めていきます。

CSR推進概念と活動の実践

参天製薬では、「参天企業倫理綱領」の「顧客」「社員」「社会」の3つの視点と「ISO26000¹」の中核主題を参考に、当社独自に「CSR推進中核領域」を定義しています。その領域ごとにCSR方針を定め、これらを「CSR推進概念」として定義しています。また、ステークホルダーとの対話により得られる貴重なご意見をもとに、当社のCSR活動を適切に評価し、今後の活動を充実させていくことが重要と考えています。

CSR活動の実践においては、7つの「CSR推進中核領域」ごとに「中期活動テーマ」と、具体的な「活動項目」を設定し、中期・短期でPlan(計画)→Do(実践)→Check(評価)→Action(改善)のPDCAサイクルの確実な運用に努めています。また、活動の進展状況や環境変化を踏

CSR推進中核領域



まえて、「中期活動テーマ」ごとのゴールと、活動の進捗状況を客観的に評価するために「活動項目」ごとの主要評価指標(KPI)を定め、CSR活動のさらなる充実化に取り組んでいます。

1. 国際標準化機構(ISO)によって発行された、社会的責任に関する国際ガイドンス規格。企業にとどまらず、政府・学校・NGO等、あらゆる組織を対象としている
2. ステークホルダーとの対話を通じて、その関心事項を理解し、自社の活動や意思決定に反映すること



CSRマネジメント

参天製薬では、ステークホルダー・エンゲージメント¹の確立に向けて様々な活動を進めています。医療関係者や、視覚障がい者支援団体の方などとの対話であるステークホルダー・ダイアログを実施しており、いただいた貴重なご意見を社内で共有し、CSR活動のレベルアップを図っています。また、株主・投資家への情報開示とコミュニケーションの促進にも積極的に取り組んでいます。

1.ステークホルダーとの対話を通じて、その関心事項を理解し、自社の活動や意思決定に反映すること



医療関係者とのダイアログの様子

適正な製品・サービスの提供

優れた製品の開発と提供

参天製薬では、信頼性保証本部が医薬品の研究、開発、製造、販売の各過程に関わり、製品の信頼性と品質の確保に努めています。また、医薬品医療機器等法を遵守することはもとより、独自の規格や基準を設けるなど、世界水準の信頼性保証体制を確立しています。生産拠点については、国内では能登と滋賀、海外ではフィンランドのタンペレ、中国の蘇州に工場を構え、年間約3億本の点眼剤を製造しており、世界の患者さんに向けて安定的に供給できる体制を構築しています。

製品・疾患に関する情報・サービスの提供

医薬品を安全かつ適正に使用していただくためには、効能や副作用、使用方法などの情報を医療関係者に提供することが必要です。当社では、正確で迅速な情報提供活動を行うために、全国にMR(医薬情報担当者)を配置し、専門教育を継続的に実施しています。

お客様からのご相談にはお客様相談室で一元的に対応するとともに、いただいた貴重なご意見を、製品の改良や

情報提供サービスの改善などに生かしています。また、目の病気や点眼剤の正しい使い方、医薬品や医療機器に関する小冊子を作成し、医療機関を通じて提供するとともに、当社ウェブサイトでも情報を発信しています。

公正な事業取引

当社は、事業活動におけるコンプライアンス確保も重要な課題であると認識しており、社員のコンプライアンス意識の醸成、情報セキュリティ対策の実施、個人情報保護の徹底、内部統制システムの適切な運用と改善に取り組んでいます。そして、取引先は重要なパートナーであるとの認識のもと、健全で発展しあえる関係構築に努めています。

人権尊重

当社は、人権尊重に関する方針のもと、実行計画を策定し人権啓発活動を推進しています。具体的には、階層別研修や職場単位での研修、人権啓発ポスターの掲示や人権標語の募集などの活動を通じて人権尊重意識の醸成に努めています。

労働・安全衛生

当社は、事業所ごとの特性や規模に応じた労働・安全衛生マネジメントシステムを構築しています。各事業所では、設備や作業などに潜在する危険要因を定期的に洗い出して対策を実行するなど、様々な安全衛生施策の実施により、社員の安全確保および健康増進を図り、働きやすい職場環境の維持・向上に取り組んでいます。

また、障がい者雇用を促進する目的で、1997年に特例子会社クレールを設立しました。障がい者がいきいきと働くことができる職場にするために、職場環境の整備と能力開発を継続的に行っています。

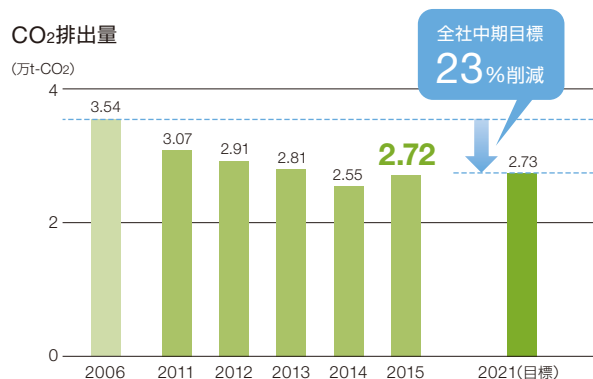
環境保全

当社は、生物多様性が生み出す自然を地球環境の重要な基盤であると認識し、「美しい地球を次世代へ引き継ぐ」ための「環境保全活動」を重要な経営課題の一つとして位置付け、低炭素社会や循環型社会の実現に貢献する取り組みを推進しています。そのため、事業活動と一体と

なった環境保全体制を構築し、様々な環境課題に取り組むとともに、従業員一人ひとりの自律的な活動を通じた環境負荷低減および地球環境保全を推進しています。国内では滋賀プロダクトサプライセンター、能登工場、特例子会社のクレールを統合組織として、海外子会社ではサンテン・オイで、環境マネジメントシステムの「ISO14001」の認証を取得しています。

そして、事業活動に伴うエネルギー使用量・物質投入量・水資源使用量などのインプットおよび大気や水域への排出量・廃棄物の発生状況などアウトプットを測定することで、環境へ及ぼす影響を把握しています。また、環境保全の取り組みに関わるコスト(投資額と費用)およびその効果(経済効果と環境保全効果)を把握し、環境負荷の低減に向けた取り組みを継続的に実施しています。

2014年3月期からは、日本製薬団体連合会の低炭素社会実行計画に参加し、「2020年度のCO₂排出量を2005年度比23%削減する」という中期目標を設定して取り組みを進めています。



社会貢献

当社は、事業領域に関わる医療・福祉および地域社会を中心として社会貢献活動を行っています。

医療・福祉分野では、発展途上国での失明防止などに取り組むNGOであるヘレン・ケラー・インターナショナル、国内では日本アイバンク協会、日本失明予防協会などの団体への寄付を継続的にを行っています。また、将来の先端科学技術を担う人材を育成するために、奈良先端科学技術大学院大学との連携講座を開設しています。この他にも、中国では中国眼科医奨学金制度への助成活動、韓国では眼科研修基金への援助を行い眼科医の養成に協力しています。また、視覚障がい者支援団体などと連携して、イベント開催時などに社員がボランティアとして参加しています。

地域社会においては、本社、研究所、工場等の主要な事業所の周辺地域における美化活動や緑化活動、防犯活動などに積極的に参加しています。

また、大規模な災害発生時には、義援金の寄付や医薬品等の無償提供を行うなど、企業市民としての活動にも取り組んでいます。2015年4月25日にネパール中部で発生した地震により被災された方々と地域に対して、会社として300万円を日本赤十字社および国際協力NGOであるジャパンプラットフォームに寄付しました。加えて、当社社員とのマッチングギフト制度²による寄付を実施しました。

2. 社員の寄付と同額を会社が上乗せし、寄付する制度

詳細については、当社公式ホームページ内の「CSR(社会的責任)」をご参照ください。
<http://www.santen.co.jp/ja/csr>

「DBJ環境格付」に基づく最高ランクの格付けを取得

参天製薬は、2014年10月に、日本政策投資銀行による「DBJ環境格付」に基づき、「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高ランクの格付けを取得することができました。講評では、CSR推進中核領域ごとに特定したステークホルダーごとの対話を通じて、それぞれ設定したKPIの定量的な指標によって成果を示すとともに、将来のさらなる活動推進の姿勢を示すことで、幅広いステークホルダーとの信頼関係を強化していくことができるなどの点を、今後の改善事項としてアドバイスいただきました。当社では、この環境格付けの取得と講評結果を生かして、継続したCSR活動の充実を図っていきます。



DBJ環境格付 認定証

Corporate Governance

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

参天製薬は、企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるために、コーポレート・ガバナンスの充実・強化が不可欠であると考えています。企業統治システムを構築することで、経営の透明性ならびに健全性を確保しながら業績の向上に取り組んでいます。

具体的には、複数人の社外取締役を選任することによる経営監視機能の強化、社内・社外取締役で構成される任意の委員会である「戦略審議委員会」、「指名委員会」、「幹部報酬委員会」の設置、マネジメントの強化と業務執行のスピードの向上を図るための執行役員制度の採用などを実施しており、今後もコーポレート・ガバナンスを一層強化し、経営の透明性・客観性の向上を目指します。

ならびに、監査役制度を採用しており、監査役の職務を補助する専任スタッフである監査役室の設置、内部監査室や会計監査人との連携等により、監査役の機能強化を図っています。

会社の機関の内容

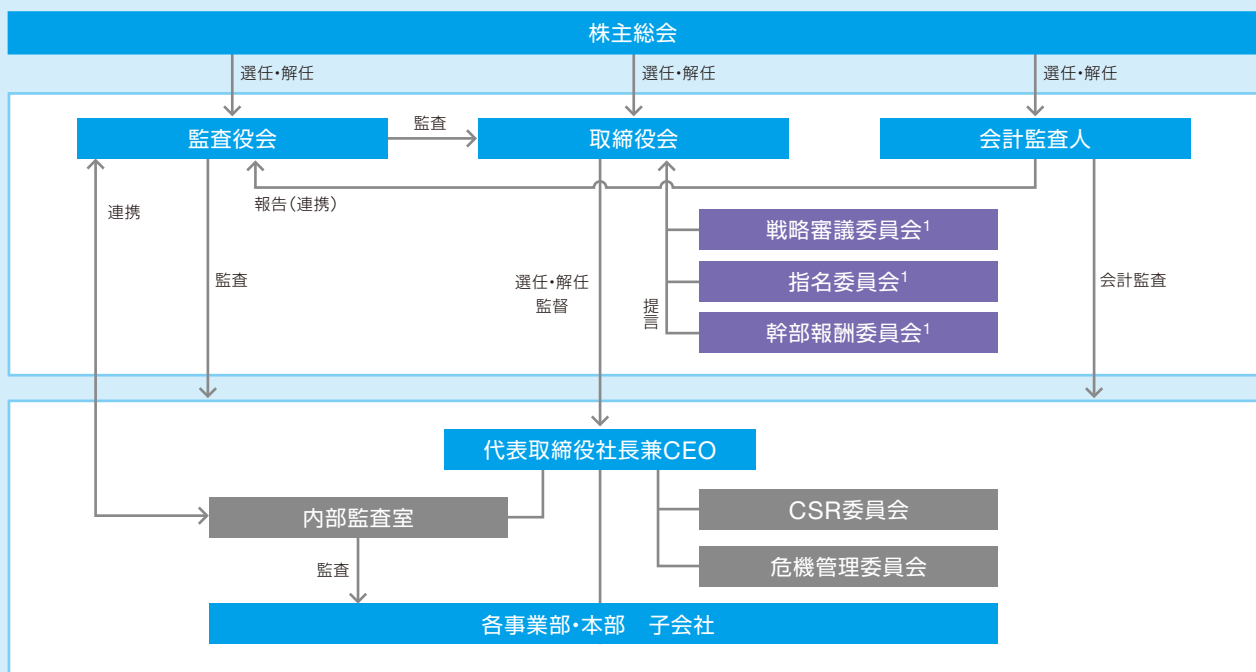
●取締役会

参天製薬の取締役会は、法令に定めのある事項に加え、当社の経営方針、経営戦略、事業計画、重要な財産の取得や処分、重要な組織・人事に関する意思決定、当社および子会社における業務執行の監督等を行っています。原則として月1回開催され、2015年6月現在、社内取締役2名(うち代表取締役1名)、社外取締役3名の合計5名で構成されています。2015年3月期に取締役会は13回開催されました。

●監査役会

監査役会は、社外監査役3名を含め4名で構成されています。監査役は、監査方針や監査計画を策定し、取締役会やその他の重要会議に出席するほか、本社、主要事業所、子会社における業務および財産の状況調査等を通じて、取締役の職務執行を監査しています。2015年3月期に監査役会は10回開催されました。

企業統治体制(2015年6月現在)



1. 指名委員会等設置会社における委員会とは異なる

●各種委員会

コーポレート・ガバナンスを一層強化し、経営の透明性・客観性を向上させるため、審議機関として社内・社外取締役で構成される次の3委員会を設置しています。なお、これらの委員会は、指名委員会等設置会社における委員会とは異なります。

各種委員会の役割と構成

委員会名	役割	構成
戦略審議委員会	事業戦略など重要な戦略課題について集中して審議する。	全取締役
指名委員会	取締役候補の選定について審議し、取締役会に提言するとともに、執行役員、監査役候補の選任についても協議し、取締役会に助言する。	代表取締役および社外取締役
幹部報酬委員会	取締役、執行役員の報酬について審議し、取締役会に提言する。監査役会に監査役報酬の水準等の情報提供ならびに助言する。	代表取締役および社外取締役

●執行役員制度

マネジメントの一層の強化と意思決定の質・スピードの向上を図るため、執行役員制度を導入しています。2015年6月現在、執行役員は取締役による兼務を除き13名です。

社外取締役および社外監査役と当社との関係

社外取締役または社外監査役の選任判断においては、証券取引所の独立基準に加え、当社の社内基準を適用しています。具体的には、当社グループとの関わり(勤務実態、取引、株式保有等)において、独立性を有すると判断するための基準を定め、候補者を決定しています。

社外取締役3名および社外監査役3名は、当社の関係会社、主要株主、主要な取引先の出身者等ではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断されることから独立性が確保されています。なお、社外取締役奥村昭博は、慶應義塾大学の名誉教授であり、当社は同大学と共同研究等の取引や寄付を行っていますが、これらは医学関連のもので、社外取締役奥村昭博の専攻分野である経営学に関連するものではありません。

社外役員の選任理由

奥村 昭博 社外取締役	長年に渡る大学および大学院での経営学教授としての幅広い知識・経験を当社の経営に反映していただけると判断して、選任しています。
片山 隆之 社外取締役	長年に渡り国内外で経営に携わってきたことによる幅広い知識・経験を当社の経営に反映していただけると判断して、選任しています。
大石 佳能子 社外取締役	長年に渡り国内外で経営に携わってきたことによる幅広い知識・経験を当社の経営に反映していただけると判断して、選任しています。
水野 裕 社外監査役	長年に渡り国内外で経営に携わってきたことによる幅広い知識・経験を当社の監査業務に反映していただけると判断して、選任しています。
松沢 幸一 社外監査役	長年に渡り国内外で経営に携わってきたことによる幅広い知識・経験を当社の監査業務に反映していただけると判断して、選任しています。
足立 誠一郎 社外監査役	長年に渡り国内外で経営に携わってきたことによる幅広い知識・経験とともに、上場企業で常勤監査役を務めた経験を当社の監査業務に反映していただけると判断して、選任しています。

役員の報酬等の内容

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数(名)
		報酬(年額)	株式報酬型 ストック・オプション	賞与	退職慰労金	
取締役(社外取締役を除く)	204	149	55	-	-	2
監査役(社外監査役を除く)	26	26	-	-	-	1
社外役員	64	64	-	-	-	7

(注)対象となる役員の員数は、当連結会計年度に就任していた者の合計で、2014年6月25日開催の定時株主総会の終結の時をもって任期満了により退任した社外監査役1名を含んでいます。

詳細については、当社公式ホームページ内の「コーポレート・ガバナンス報告書」をご参照ください。

<http://www.santen.co.jp>

監査役と会計監査人との連携状況

監査役は、毎期期首に、会計監査人より年間監査実施計画および重点監査項目について説明を受け、監査役の要望も含め、会計監査人と意見交換を行っています。また、年3回、会計監査人との四半期レビューおよび期末監査の結果報告会を実施し、会計監査人と監査結果の意見交換を行っています。

また、監査役は、四半期レビューおよび期末監査終了後の各講評会に出席し、会計監査人と四半期レビューおよび期末監査の結果を共有するとともに、中には会計監査人の監査の方法について監査を行うほか、適宜、会計監査人との情報交換を行っています。

監査役と内部監査部門との連携状況

監査役と内部監査室は定期的に会議を開催し、それぞれの監査計画や監査の実施状況について、その進捗や確認事項の共有化を図るとともに、必要に応じ事業所や子会社の往査を同時期に行うなど、常時緊密に連携しています。

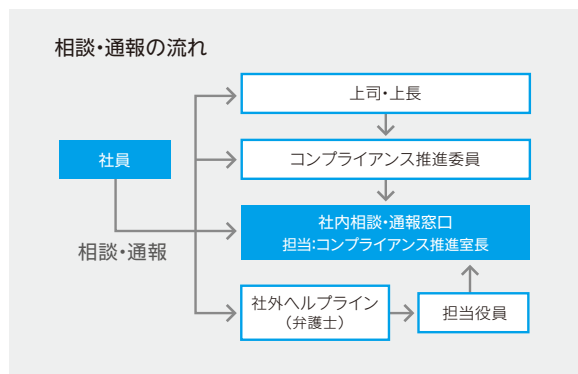
コンプライアンス

内部統制システムの整備状況

参天製薬は、「天機に参与する」という基本理念のもと、医療の一端を担う企業として、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会へ寄与するとともに、自らの存在意義を高め、持続的に成長することを目指しており、その達成に向け、以下のような内部統制システムの整備を進めています。

コンプライアンス体制については、企業行動宣言と企業行動規範から構成される「参天企業倫理綱領」を1999年12月に制定、その後は状況の変化に応じて改定を重ね、取締役・従業員からなる全ての構成員の企業活動における行動指針としています。市民社会の秩序・安全に脅威を与えるような反社会的勢力からのいかなる要求にも応じないことも、この「参天企業倫理綱領」に定められています。

また、担当役員、担当部署およびCSR委員会を設置し、コンプライアンスの徹底に努めるとともに、会社内でのコンプライアンス上、疑義のある行為等については、社内相談



窓口、ならびに弁護士を窓口とする社外ヘルプラインを通じて、直接に相談・通報できる体制を整備しています。

参天製薬における業務については、その適正性の向上に関して当社が助言・指導を行う管理体制を築くとともに、グループ会社管理規程を整備してグループ各社の役割・責任を明確にし、主要なグループ会社における監査機能を強化することで、さらなる適正性の確保を目指しています。

以上の体制が効率的に機能しているか検証するための部署として、各業務執行部門から独立した、社長直轄の内部監査室を設けています。なお、内部監査室の人員は室長を含め4名です。

また、財務報告の信頼性に係る内部統制については、各部門ならびに主要子会社がその適正性に関して自己点検を行い、内部監査室が自己点検の妥当性を検証する体制を整備しています。当事業年度においては、財務報告の信頼性を損なうような重要な不備・欠陥は発見されませんでした。引き続き、金融商品取引法下での内部統制報告制度に瑕疵なく対応できる体制の整備・維持を図ります。

透明性に関する指針

参天製薬は、日本製薬工業協会による「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」「企業活動と患者団体の関係の透明性ガイドライン」をはじめとする諸規範に則り、「医療機関等との関係の透明性に関する指針」「患者団体との関係の透明性に関する指針」を定めています。資金提供等に関する情報は、公式ホームページを通じて幅広く公開しています。

「透明性に関する指針」については、当社公式ホームページをご参照ください。

<http://www.santen.co.jp>

リスクマネジメント

リスクマネジメント推進体制

危機管理規程に基づいて、事業活動上想定される主要なリスクに的確に対処する体制を整備しています。各事業部・本部は、平時から自らの業務にかかわるリスクの管理に関する方針・対応策の策定、情報収集を行い、リスクの回避・最小化に努めています。複数の部門にわたる重大なリスクについては、「危機評価委員会」において、その管理に関する方針・対応策を協議しています。万が一、緊急事態が発生した際には、その影響の度合いによって、代表取締役を責任者とする「危機対策委員会」を立ち上げ、危機管理規程に基づいて損失の最小化および迅速な復旧を図るとともに、再発防止策を講じる体制になっています。これらリスク管理の状況については、管掌役員を定め事務局を常設し、事務局が全社的な観点から、内部監査室が独立した立場から、それぞれ検証しています。

BCM(事業継続マネジメント)

災害などの危機が発生した際、医薬品は被災者の方々が最優先で必要とする物資です。当社は、被災地で医療活動をされる医療関係者および患者さんへの医薬品の供給を途切れさせてはならないと考えています。そのため、平時に事業継続上のリスクを分析し、優先的・重点的に対応をとるべき領域と方針を明確にし、具体的な対策を立案、いざとなった場合に当たり前のこととして組織的に対応できるように取り組みを進めています。非常時の備えを確実なものとするため、このマネジメントサイクルのPDCA¹を継続的に遵守していきます。

1. 事業活動を円滑に進める手法の一つ。P(Plan)・D(Do)・C(Check)・A(Action)という事業活動の「計画」「実践」「評価」「改善」のサイクル

情報セキュリティ

情報管理体制については、情報セキュリティ基本規程、文書管理規程などの社内規程に基づいて、情報を安全に保存・管理しています。また、当社では個人情報保護方針と個人情報保護に関するコンプライアンス・プログラムを策定し、役員・社員への教育研修を通じた周知徹底と、適正な運用に努めています。

情報開示

IRに関する活動状況

当社は、株主・投資家の皆さまに対し、当社の経営方針や事業戦略、業績・財務に関わる情報を、分かりやすく公平かつ正確に提供することを基本方針として「ディスクロージャーポリシー」を制定し、積極的な情報開示に取り組んでいます。

アナリスト・機関投資家向けに、第2四半期と期末決算発表後に決算説明会を開催し、第1四半期と第3四半期においてはカンファレンスコールを実施するほか、国内外で開催される証券会社のカンファレンスへの参加、海外の株主・投資家への訪問を行っています。また、幅広い投資家を対象とした企業情報の説明を目的とし、個人投資家向け説明会やスモールミーティング等を実施しています。

当社ホームページでは、決算短信、データブック、決算説明会資料、決算説明会動画、有価証券報告書、アニュアルレポート、株主総会招集通知や決議通知等を掲載しています。



決算説明会(2015年5月)



日興アイ・アールの「2014年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」の総合ランキングで優良サイトに選定され、大和インベスター・リレーションズの「2014年インターネットIR表彰」で優良賞を受賞するなど、外部機関から高い評価を得ています。

公式ホームページ <http://www.santen.co.jp>

Message



社外取締役
大石 佳能子

経営の意思決定における 「チェック・アンド・バランス」に寄与

参天製薬は眼科領域に特化し、長期的な経営ビジョンである「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」を目指しています。この実現のためには、グローバルな視点で最先端の研究・開発に取り組むことにより未充足ニーズに対応することや、既に存在している有効な薬剤を確実に患者さんにお届けすることに加え、製品だけでなく、情報・サービスや医師・医療関係者への情報提供や、疾患啓発、地域医療への貢献も含めた「トータル・ソリューション」の提供が求められています。

社外取締役として、一番大事な役割は、経営ビジョン実現のための重要な意思決定における「チェック・アンド・バランス」に寄与し、正しいガバナンスを確保することです。そのためには公平な「外部の目」としての機能を果たすことが求められていると認識しています。特に、参天製薬が眼科領域における「トータル・ソリューション」の提供者となるために、医療機関の経営に携わり、多くの患者さんのニーズに触れてきた経験を生かして、新たな視点を提供し、経営ビジョン実現に貢献していきたいと考えています。



社外監査役
松沢 幸一

グローバル企業としてのガバナンスへ

参天製薬は「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」を目指して、アジア・欧米などでの事業を速いテンポで拡大しています。しかし、会社の発展に伴い、それだけ社会的責任も大きくなっていきます。世界各地で展開されている事業において、全ての役員・社員が、このことを普段から意識して事業活動に取り組む必要があります。社会的責任の一つとして、コーポレート・ガバナンスについては、投資家のみならず一般社会の関心も高まっています。また、日本では本年6月1日から東京証券取引所の新しいコーポレートガバナンス・コードが全ての 상장企業に求められるようになりました。

参天製薬では、すでに独立社外取締役・監査役が多数を占める体制で意思決定や業務執行の監督、監視が行なわれています。今後、運用面で質の向上に努めて、コーポレート・ガバナンスにおいても、エクセレントカンパニーとして世界の人々から認められるようになるために、監査役として一層努めていく所存です。

取締役、監査役

2015年8月現在



(前列左から)片山 隆之/古門 貞利/黒川 明/奥村 昭博/大石 佳能子 (後列左から)松沢 幸一/納塚 善宏/水野 裕/足立 誠一郎

取締役

黒川 明

代表取締役社長兼CEO

1977年 当社入社
1997年 取締役 医薬事業部長室長
2001年 執行役員 医薬事業部長
2004年 常務執行役員 医薬事業部長
2006年 代表取締役社長兼COO
2008年 代表取締役社長兼CEO(現任)

古門 貞利

取締役 副社長執行役員 日本事業・グローバル人材開発担当

1977年 当社入社
2005年 執行役員 医薬事業部医薬営業統括部長
2007年 常務執行役員 医薬事業部長
2011年 専務執行役員 日本・アジア事業管掌兼医薬事業部長
2011年 取締役(現任)
2013年 専務執行役員 日本事業・人材開発管掌兼医薬事業部長
2014年 副社長執行役員 日本事業・グローバル人材開発担当(現任)

奥村 昭博

社外取締役

1988年 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科教授
2008年 慶應義塾大学名誉教授(現任)
2011年 当社社外取締役(現任)
2014年 静岡県立大学大学院
経営情報イノベーション研究科
特任教授(現任)
2015年 静岡県立大学副学長(現任)

片山 隆之

社外取締役

2006年 帝人株式会社代表取締役副社長
2011年 帝人株式会社顧問役(現任)
2012年 当社社外取締役(現任)
2012年 東洋製罐グループホールディングス
株式会社社外監査役(現任)

大石 佳能子

社外取締役

1993年 マッキンゼー・アンド・カンパニー パートナー
2000年 株式会社メディアヴァ設立 同社代表取締役
(現任)
2004年 医療法人社団プラタナス設立 同総事務長
(現任)
2015年 当社社外取締役(現任)
2015年 江崎グリコ株式会社 社外取締役(現任)
2015年 スルガ銀行株式会社 社外取締役(現任)

監査役

納塚 善宏

常勤監査役

1976年 当社入社
1999年 経理・財務グループ
グループマネージャー
2006年 執行役員
計画・統制本部長
2008年 執行役員 社会・環境担当
2010年 常勤監査役(現任)

水野 裕

社外監査役

2004年 松下電器産業株式会社役員
2011年 当社社外監査役(現任)
2013年 コクヨ株式会社社外監査役
(現任)

松沢 幸一

社外監査役

1996年 キリンヨーロッパ
代表取締役社長
2008年 キリンホールディングス株式
会社代表取締役常務取締役
2009年 麒麟麦酒株式会社
代表取締役社長
2014年 当社社外監査役(現任)

足立 誠一郎

社外監査役

2008年 豊田通商株式会社常務取締役
2010年 豊田通商ヨーロッパ 社長
2013年 豊田通商株式会社常勤監査役
2015年 豊田通商株式会社顧問(現任)
2015年 当社社外監査役(現任)

執行役員

2015年8月現在



(前列左から)辻村 明広/伊藤 毅/佐藤 正道/ナヴィード・シャムズ (後列左から)木村 章男/谷内 樹生/越路 和朗/山崎 弘之/太田 淳稔/山本 範明/森島 健司/中田 圭三 (枠外)ユルキ・リリエロース

執行役員 (取締役による兼務を除く)

佐藤 正道

常務執行役員
企画本部担当
兼 CSR・業務本部長

伊藤 毅

常務執行役員
医薬事業部長

ナヴィード・シャムズ

常務執行役員
チーフ・サイエンティフィック・オフィサー (CSO)
兼 研究開発本部長
兼 サンテン・インク社長 兼 CEO

辻村 明広

常務執行役員
アジア事業部長

太田 淳稔

常務執行役員
人材組織開発本部長

越路 和朗

常務執行役員
チーフ・ファイナンシャル・オフィサー (CFO)
兼 財務本部長

ユルキ・リリエロース

執行役員
サンテン・オイ社長

森島 健司

執行役員
研究開発本部
グローバル製剤技術統括部長

木村 章男

執行役員
信頼性保証本部長

山本 範明

執行役員
チーフ・インフォメーション・オフィサー (CIO)
兼 情報システム本部長

山崎 弘之

執行役員
医薬事業部
医薬営業統括部長

中田 圭三

執行役員
プロダクトサプライ本部長

谷内 樹生

執行役員
欧州事業統括

Financial Section

財務情報

経営成績および財政状態に関する分析	50
事業等のリスク	54
11年間の要約財務データ	56
連結純損益及びその他の包括利益計算書	58
連結財政状態計算書	59
連結持分変動計算書	60
連結キャッシュ・フロー計算書	63

連結財務諸表注記を含む財務情報の詳細については、当社ホームページ内の「有価証券報告書」をご参照ください。

<http://www.santen.co.jp/ja/ir/document/securities.jsp>

経営成績および財政状態に関する分析

経営成績

国際会計基準(IFRS)の適用

参天製薬グループは、日本、アジア、および欧州などで事業を展開しています。また、参天製薬株式会社の株主構成は、外国人投資家の株式保有比率が40%を超える高い水準となっています。これらの状況を踏まえ、資本市場において、財務情報の国際的な比較性向上を目指し、2015年3月期より国際会計基準(以下、IFRS)を適用しています。なお、2014年3月期の諸数値をIFRSに組み替えて比較分析を行っています。

日本基準とIFRSとの主要な差異は、以下の通りです。

[表示科目]

- IFRSの「売上収益」は、日本基準での「売上高」に相当します。
- IFRSの「営業利益」は、日本基準での「営業利益」と異なり、従来の営業活動に関する利益に加えて、日本基準での「営業外収益」、「営業外費用」、「特別利益」および「特別損失」項目が含まれます。ただし、これらの項目のうち、受取利息や支払利息、為替差損益などは「金融収益」「金融費用」として区分され、IFRSの「営業利益」には含まれません。

[詳細項目]

- 日本基準では、製品および技術の導入契約に伴い発生した一時金等の費用のうち、主に当局の承認が得られる前に発生したものを研究開発費として費用処理していましたが、IFRSでは、これらの費用のうち、要件を満たしたものを無形資産として計上し、使用可能となった時点から見積耐用年数にわたって定額法で償却しています。
- 日本基準では、のれんについては、効果が発現すると見積られる期間にわたり均等償却を行っていましたが、IFRSでは償却を行っていません。
- 日本基準では、退職給付に係る数理計算上の差異を発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数で償却していましたが、IFRSでは確定給付負債の純額の再測定金額を発生時にその他の包括利益で認識し、直ちに利益剰余金に振り替えています。

コアベースでの業績指標の採用

IFRS適用を機に、IFRSによる業績(IFRSフルベース)から一部の収益、費用を控除したコアベースでの財務情報を経常的な業績を示す指標として、併せて開示します。

コアベースの定義と業績については、
P.8をご参照ください。

売上収益

参天製薬の事業は、医薬品事業とその他事業の2つのセグメントから構成されます。売上収益の多くは医薬品事業によるものであり、その比率は98.4%となっています。医薬品事業の売上高は前期比11.1%増の1,592億62百万円となりました。一方、その他事業の売上収益が前期比12.6%減の25億69百万円となったことにより、全体の売上収益は前期比10.6%増の1,618億31百万円となりました。

医薬品事業

[医療用医薬品]

参天製薬が取り扱う眼科薬、抗リウマチ薬、その他医薬品の売上収益は、前期比11.5%増の1,525億56百万円、売上収益構成比では94.3%となりました。

■眼科薬

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開したことから、国内医療用眼科薬の売上収益は、前期比3.5%増の1,053億45百万円となりました。海外における医療用眼科薬の売上収益は、円換算ベースで前期比32.1%増の307億14百万円となりました。欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」(日本製品名:タプロス点眼液)が市場に浸透しました。アジアにおいても、普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。以上の結果、医療用眼科薬の売上収益は、前期比8.8%増の1,360億59百万円となりました。

■抗リウマチ薬

薬価改定や競合の影響もあり、抗リウマチ薬の売上収益は、前期比6.1%減の96億29百万円となりました。なお、抗リウマチ薬事業は2015年8月3日にあゆみ製薬への承継を完了しています。

■その他医薬品

その他医薬品には、技術提携(導出)契約に基づく収入、受託製造などが含まれます。また、米国メルク社の眼科製品の承継に関し、関連する法制上の手続きが完了し、各国・地域で参天製薬グループの製品としての販売が開始されるまでの間、米国メルク社側に生じた利益の一部が契約に

基づいて当社に還元されます。この収入が51億74百万円あったことにより、その他医薬品の売上収益は、68億68百万円となりました。

[一般用医薬品]

「サンテ」シリーズ全体のブランド価値向上のための販売促進活動に注力したことや、高価格品が堅調に推移したことなどにより、一般用医薬品の売上収益は、前期比4.1%増の67億6百万円となりました。

その他事業

[医療機器]

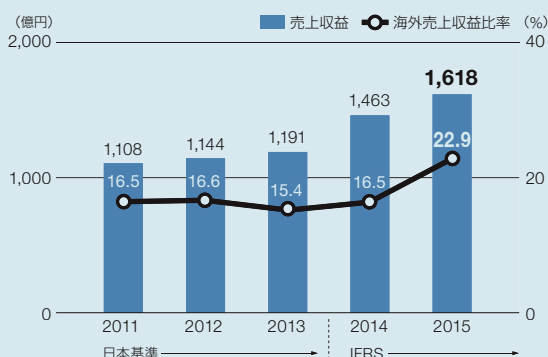
高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力したものの、競合の影響などもあり、医療機器の売上収益は、前期比13.1%減の23億27百万円となりました。

セグメント別売上収益

	単位:百万円		%
	2015年3月期	2014年3月期	
医薬品事業	¥159,262	¥143,320	11.1
医療用医薬品	152,556	136,880	11.5
眼科薬	136,059	125,033	8.8
抗リウマチ薬	9,629	10,251	(6.1)
その他医薬品	6,868	1,595	330.6
一般用医薬品	6,706	6,440	4.1
その他事業	2,569	2,940	(12.6)
医療機器	2,327	2,678	(13.1)
その他	242	262	(7.4)
合計	¥161,831	¥146,260	10.6

(注)各セグメントの売上収益は外部顧客に対する売上収益を表しています。

売上収益および海外売上収益比率



[その他]

その他の売上収益は、当社連結子会社クレールでの無塵・無菌服のクリーニング業とサプリメント製品の販売によるもので、2億42百万円となりました。

売上原価

売上原価は、前期比1.7%減の563億73百万円となりました。売上原価率は、前期と比べ4.4ポイント減少し、34.8%となりました。

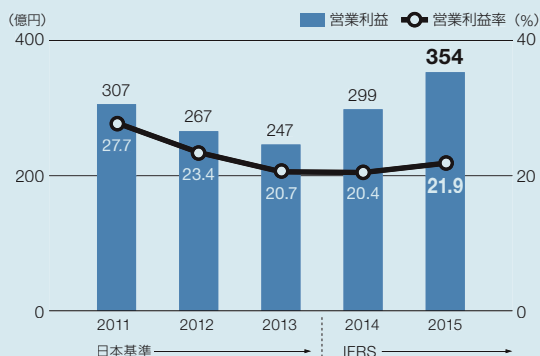
販売費及び一般管理費、研究開発費、無形資産償却費

販売費及び一般管理費については、米国メルク社の眼科製品の承継に伴い、販売活動に関する費用が増加したことなどにより、前期比17.4%増の488億93百万円となりました。研究開発費は、前期比3.7%増の174億77百万円となりました。上述の米国メルク社の眼科製品の承継に伴う無形資産の償却費を計上したことなどにより、製品に係る無形資産償却費は、39億79百万円となりました。

営業利益

営業利益は、前期比18.4%増の353億74百万円となりました。売上収益営業利益率は、前期の20.4%から21.9%へ増加しました。

営業利益および営業利益率



その他の損益

金融収益は、当期に株式の売却益の計上がなかったことにより、前期比16.2%減の7億68百万円となりました。金融費用は、為替差損の影響が少なくなったことにより、前期比35.5%減の2億79百万円となりました。

法人所得税費用

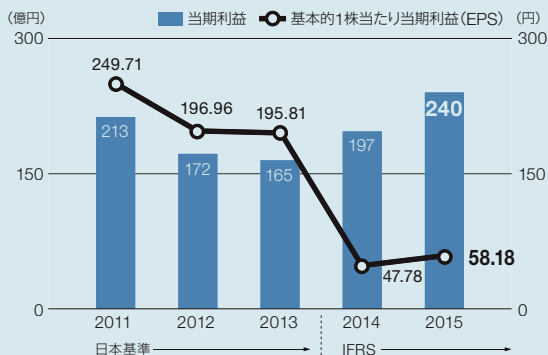
法人所得税費用は、118億31百万円となりました。税引前当期利益に対する法人所得税費用の比率は、前期の35.1%から33.0%となりました。

当期利益

当期利益は、前期比21.9%増の240億32百万円となりました。売上収益当期利益率は、前期の13.5%から14.9%となりました。基本的1株当たり当期利益(EPS)は、前期の47.78円から58.18円に、希薄化後1株当たり当期利益は、前期の47.63円から57.93円になりました。

なお、当社では、2015年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しましたが、2014年3月期以降の基本的1株当たり当期利益(EPS)ならびに希薄化後1株当たり当期利益については、2014年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

当期利益および基本的1株当たり当期利益(EPS)

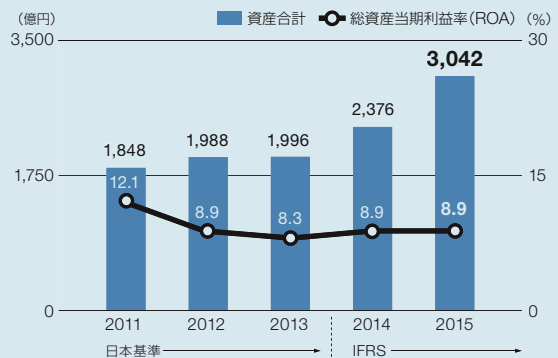


財政状態

資産

資産合計は前期末比28.0%、665億60百万円増の3,042億円となりました。米国メルク社の眼科製品の承継等が主な要因です。総資産当期利益率(ROA)は前期同等の8.9%となりました。流動資産合計は1,506億72百万円となり、資産合計に対する流動資産の割合は、前期末の64.5%から49.5%へ減少しました。有形固定資産は291億4百万円、無形資産は844億33百万円、金融資産は347億25百万円となりました。

資産合計および総資産当期利益率(ROA)



負債

負債は前期末と比べ491億91百万円増加し、924億21百万円となりました。米国メルク社の眼科製品の承継に関して総額400億円の長期借入れを実行したことから、金融負債、その他の金融負債が増加したことが主な要因です。流動負債は563億40百万円、非流動負債は360億81百万円となりました。

資本

資本合計は前期末と比べ245億69百万円増加し、2,117億79百万円となりました。利益剰余金およびその他の資本の構成要素の増加などが要因です。親会社所有者帰属持分比率は、前期の78.8%から69.6%へ減少しました。また、1株当たり親会社所有者帰属持分は、前期末比13.0%、58.71円増の511.14円となり、親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)は、前期の11.1%から12.0%へ増加しました。

親会社所有者帰属持分および
親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)



■ キャッシュ・フロー

参天製薬では健全なバランスシートの維持、適正な流動性および事業活動に必要な資金の確保に注力しています。

営業活動によるキャッシュ・フローは、253億86百万円の収入となりました。法人所得税の支払いが140億87百万円、営業債権及びその他の債権の増加が77億1百万円ありましたが、当期利益が240億32百万円、減価償却費及び償却費が69億58百万円あったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、617億9百万円の支出となりました。投資の売却及び償還による収入が41億49百万円ありましたが、無形資産の取得による支出が634億68百万円あったことなどによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、289億60百万円の収入となりました。配当金の支払いが82億64百万円ありましたが、米国メルク社の眼科製品の承継に関し、長期借入れによる収入が400億円あったことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前期と比べ64億円74百万円減少し、659億23百万円となりました。

キャッシュ・フロー・サマリー

単位:百万円

	2015年3月期	2014年3月期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	¥25,386	¥26,686	¥(1,300)
投資活動による キャッシュ・フロー	(61,709)	(7,847)	(53,862)
財務活動による キャッシュ・フロー	28,960	(7,954)	36,914
現金及び現金同等物 の期末残高	65,923	72,397	(6,474)

(注)括弧の数値はマイナスを示しています。

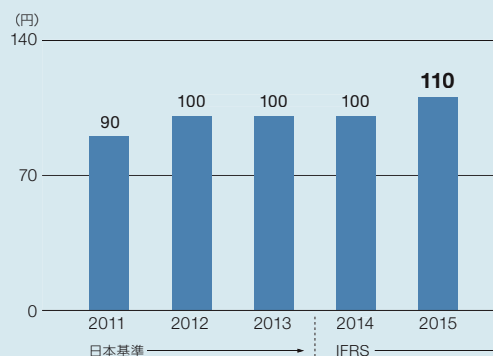
■ 利益配分に関する基本方針

参天製薬では、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付け、次の通り、利益配分に関する基本方針を定めています。

- 資本効率の向上、企業価値増大に寄与する研究開発投資や今後の成長戦略に備えた内部留保等を考慮しつつ、業績に基づく適正な配当を実施
- 将来の資金需要、財務状況等に応じた配当水準の維持、向上に努める
- 自己株式の取得・消却についても機動的な手段として適宜検討する

株主の皆様への配当を継続的かつ安定的に行うために、「2014-2017年度中期経営計画」では親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)13%以上、配当性向40%を目処としています。配当については、1株当たり年間配当金は前期から10円増配の110円といたしました。ROEは12.0%となりました。

1株当たり配当金



見通しに関する注意事項ならびに 将来の業績に影響を与えうるリスク要因

参天製薬グループが行う開示について歴史的事実でないものは、公表時における計画・前提に基づく「見通し情報」です。見通し情報には、成長戦略、業績、製品の承認予定、研究開発の状況などが含まれます。こうした見通しを実現できるかどうかは、様々なリスクや不確実性などに左右されます。したがって、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。将来の業績または財政状態に影響を与えうるリスクや不確実性には、以下のようなものがあります。将来の業績や財政状態に影響を与えうるリスクや不確実性は、これらに限定されるものではありません。

■ 外的環境要因

医薬品行政の動向

医療用医薬品部門については、日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価に関する規制の影響を受けます。日本国内の薬価改定については、現在予測可能な範囲に限り、その影響を業績予想等の見通しに織り込んでいますが、予測可能な範囲を超えた薬価改定や、その他の医療保険制度の改定があった場合は、業績または財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

海外においても、同様に医療用医薬品の価格等に関する様々な規制があり、政府による価格低下の圧力は継続する傾向にあります。

社会・経済情勢ならびに法規制の変更

将来の業績は、主要市場における政治情勢や経済情勢の影響を受ける可能性があります。また、業績または財政状態は、会計基準、税法、製造物責任(PL)法、独占禁止法、環境関連法などの法規制変更の影響を受ける可能性があります。

為替

参天製薬グループは世界各国で事業を展開しているため、為替の変動が参天製薬グループの業績、財政状態に影響を与えます。2015年3月期の海外売上収益は、連結売上収益の22.9%でした。

■ 競争

後発品の影響

国内外における後発品の販売は、参天製薬グループの業績に影響を与える可能性があります。参天製薬グループの製品の中には、すでに他社から後発品が発売されているものもあり、今後、後発品の影響が強まる可能性があります。

■ 特定の製品・取引先等への依存

主力製品への依存

「アイリニア硝子体内注射液」、「ヒアレイン点眼液」の2製品の連結売上収益に対する比率は、2015年3月期で25%を超えています。これらの製品が万一、製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により販売中止となったり、売上収益が大幅に減少した場合、業績または財政状態に大きな影響を及ぼします。

ライセンス製品への依存

参天製薬グループの製品には、他社から製造販売権、ならびに販売権を供与されているものが多くあります。眼科薬における独占的製造販売権の供与を受けている品目には、「クラビット点眼液」、「テタントール点眼液」、「タプロス点眼液」、「ジクアス点眼液」、「アレジオン点眼液」などがあります。国内販売権の供与を受けている品目には、「リボスチン点眼液」があります。国内独占的販売権の供与を受けている品目には、「レスキュラ点眼液」、「アイリニア硝子体内注射液」があります。契約期間満了、契約条件の変更や、販売提携の解消などが起こった場合、業績に影響を及ぼします。

特定の取引先への依存

原薬や容器など、原材料の中には供給を特定の取引先に依存しているものがあります。何らかの要因によりこうした原材料の供給が停止した場合、参天製薬グループでの生産活動に悪影響を与える可能性があります。さらに、これに起因して参天製薬グループの製品の供給が滞った場合、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

参天製薬グループと取引のある医薬品卸のうち、上位10社への取引高の集中度は、連結売上収益の約70%に達しており、医薬品卸の倒産などにより貸倒れが発生した場合、参天製薬グループの業績に影響を及ぼします。

■ 研究開発活動

新薬開発の不確実性

新薬の研究開発から承認・発売までは非常に長期間を要し、開発中止、承認申請後の不許可などの不確実性を多く含みます。参天製薬グループが開発中の新薬あるいは追加効能・剤形等について、販売・製造の許可がおりるかどうか、あるいはいつ承認を得ることができるかを確実に予測することはできません。

新薬に関わる見通しを実現できるかどうかは、様々な要素の影響を受けます。例えば、承認審査の遅れ、臨床試験データが競合品に対し非劣性を示さない、安全性や効能に関する懸念、予期せぬ副作用、開発中止や発売時期の遅延などは、新薬の期待売上収益に悪い影響を与えます。

研究開発投資が十分な成果を生まない可能性

新製品の創製・開発ならびに追加効能・剤形等の開発は将来の成長に必要不可欠であり、参天製薬グループは毎年多額の研究開発投資を行っていますが、将来、研究開発投資に見合う新薬の売上収益を実現できない可能性があります。

他社との提携の成否

新製品に関わる見通しには、他社との開発・販売提携等を前提とするものが含まれています。こうした提携の成否は参天製薬グループの業績または財政状態に影響を与える可能性があります。

■ その他の要因

知的財産権

参天製薬グループの事業は、物質・製法などに関する様々な特許によって保護されています。参天製薬グループでは、これらの特許権を含む知的財産権を適切に管理し、第三者からの侵害にも注意を払っていますが、第三者

からの侵害を受けた場合には、参天製薬グループの業績に影響を与える可能性があります。また、参天製薬グループの事業が第三者の知的財産権を侵害しないようにも注意を払っていますが、万一、第三者の知的財産権を侵害した場合、損害賠償を請求されるなど、業績に影響を与える可能性があります。

生産の停滞・遅延

自然災害、火災などの要因により生産活動の停滞・遅延が起こった場合、参天製薬グループの業績または財政状態に影響を与える可能性があります。また、品目によっては、生産を一箇所に集中しているものがあり、特定の工場の機能が停止した場合、製品供給が滞る可能性があります。

販売中止、製品回収等

参天製薬グループの製品の一部分が、製品品質の欠陥、予期せぬ副作用、第三者による異物混入等により、販売中止または製品回収などの事態となった場合、業績に悪い影響を与えます。

訴訟

医療用医薬品の製造・販売を主たる事業とする参天製薬グループでは、将来、特許、製造物責任(PL)法、独占禁止法、消費者、環境などに関わる訴訟を提起される可能性があり、訴訟が発生した場合、それらの訴訟等の動向は、参天製薬グループの業績または財政状態に影響を与える可能性があります。なお、現在、参天製薬グループの経営に大きな影響を与えるような訴訟を提起されている案件はありません。

グローバルな事業展開に関わるリスク

参天製薬グループでは、医薬品の販売や研究開発活動を世界各国で行っており、また、持続的な成長のためのグローバルな事業展開にあたって、資産の譲受や企業買収を実施しています。このような世界各国における事業活動は、法令や規則の変更、政情不安、経済動向の不確実性、商習慣の相違その他のリスクに直面する可能性があり、その結果当初想定した効果や利益が実現されない可能性があります。

11年間の要約財務データ

3月31日に終了した会計年度

	2005	2006	2007	2008
	日本基準	日本基準	日本基準	日本基準
会計年度:				
売上高/売上収益	¥ 92,696	¥ 98,398	¥ 100,486	¥ 103,394
売上原価	33,710	34,535	35,484	36,513
販売費及び一般管理費 ^(注2)	40,004	42,868	44,590	46,510
営業利益	18,982	20,995	20,412	20,371
税金等調整前当期純利益/税引前当期利益	18,436	20,342	21,039	20,483
法人税等/法人所得税費用	7,413	7,319	7,891	7,832
当期純利益/当期利益	11,023	13,023	13,148	12,651
設備投資額(支払ベース)/有形固定資産および無形資産の取得による支出	4,907	2,106	3,556	3,151
減価償却費及び償却費	4,750	4,824	4,761	4,593
研究開発費	12,620	13,971	13,663	12,942
1株当たり情報(円および米ドル):				
当期純利益/基本的当期利益 ^(注3)	¥ 125.85	¥ 150.26	¥ 151.58	¥ 146.15
潜在株式調整後当期純利益/希薄化後当期利益 ^(注3)	125.71	150.01	151.31	145.94
純資産/親会社所有者帰属持分 ^(注3)	1,249.32	1,368.27	1,481.83	1,494.48
配当金	50.00	60.00	65.00	80.00
キャッシュ・フロー:				
営業活動によるキャッシュ・フロー	¥ 6,619	¥ 20,879	¥ 14,959	¥ 15,468
投資活動によるキャッシュ・フロー	(2,907)	(1,330)	(5,846)	(2,083)
財務活動によるキャッシュ・フロー	(12,712)	(5,900)	(5,691)	(11,415)
インタレストカバレッジレシオ(倍)	36.1	218.7	164.3	163.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	104.0	26.9	36.4	34.1
会計年度末:				
総資産/資産合計	¥ 139,980	¥ 150,458	¥ 159,099	¥ 156,547
有形固定資産	32,676	30,395	30,485	29,849
流動資産/流動資産合計	82,735	93,893	100,820	102,754
自己資本/親会社所有者帰属持分	108,240	118,637	128,587	126,998
長期債務/金融負債(非流動)	6,882	5,614	5,446	5,278
自己資本当期純利益率/親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)(%)	10.4	11.5	10.6	9.9
総資産当期純利益率/総資産当期利益率(ROA)(%)	7.6	9.0	8.5	8.0
自己資本比率/親会社所有者帰属持分比率(%)	77.3	78.9	80.8	81.1
時価ベースの自己資本比率/時価ベースの親会社所有者帰属持分比率(%)	142.3	163.0	165.3	126.2
株価収益率(PER)(倍)	18.3	18.8	20.0	15.9
自己資本配当率/親会社所有者帰属持分配当率(DOE)(%)	4.1	4.6	4.6	5.4
発行済株式数(千株)	86,659	86,751	86,825	86,867
従業員数(名)	2,308	2,312	2,409	2,483

(注) 1. 米ドルの金額は、読者の便宜のため、2015年3月31日現在の為替相場1米ドル=120.17円で換算しています。

2. 日本基準では研究開発費を含んでいましたが、IFRSでは研究開発費を含んでいません。

3. 当社は、2015年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。2014年3月期以降の「基本的1株当たり当期利益」、「希薄化後1株当たり当期利益」、「1株当たり親会社所有者帰属持分」につきましては、2013年4月1日に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

単位:百万円

単位:千米ドル^(注1)

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2015
日本基準	日本基準	日本基準	日本基準	日本基準	IFRS	IFRS	IFRS
¥ 101,619	¥ 110,594	¥ 110,812	¥ 114,416	¥ 119,066	¥146,260	¥161,831	\$1,346,680
35,947	34,710	34,437	35,385	41,501	57,353	56,373	469,107
50,178	46,244	45,636	52,299	52,884	41,642	48,893	406,864
15,494	29,640	30,739	26,732	24,681	29,878	35,374	294,369
15,824	28,610	31,074	27,791	25,592	30,361	35,863	298,437
5,701	9,887	9,741	10,630	9,071	10,643	11,831	98,452
10,123	18,723	21,333	17,161	16,521	19,718	24,032	199,985
2,953	1,315	1,651	3,281	3,609	5,879	66,440	552,889
4,210	3,421	2,976	2,949	3,291	2,841	6,958	57,899
18,458	14,123	13,221	17,225	16,720	16,862	17,477	145,437
¥ 119.08	¥ 220.10	¥ 249.71	¥ 196.96	¥ 195.81	¥ 47.78	¥ 58.18	\$ 0.48
118.97	219.85	249.42	196.76	195.51	47.63	57.93	0.48
1,472.32	1,614.08	1,793.15	1,887.81	1,998.44	452.43	511.14	4.25
80.00	80.00	90.00	100.00	100.00	100.00	110.00	0.92
¥ 11,849	¥ 26,110	¥ 17,768	¥ 21,483	¥ 9,943	¥ 26,686	¥ 25,386	\$ 211,248
(5,619)	(829)	(7,676)	(10,273)	(4,596)	(7,847)	(61,709)	(513,514)
(11,373)	(6,753)	(1,570)	(8,559)	(21,557)	(7,954)	28,960	240,988
165.5	558.1	488.5	1,285.0	3,037.8	2,855.4	309.8	
5.5	2.5	1.1	1.1	1.9	0.6	146.4	
¥ 151,012	¥ 166,878	¥ 184,801	¥ 198,801	¥ 199,641	¥237,640	¥304,200	\$2,531,411
28,665	26,574	24,957	25,523	27,420	27,175	29,104	242,188
101,053	118,832	137,668	140,288	132,583	153,241	150,672	1,253,822
125,181	137,343	156,099	164,514	164,808	187,210	211,779	1,762,330
154	75	152	179	145	102	25,351	210,958
8.0	14.3	14.5	10.7	10.0	11.1	12.0	
6.6	11.8	12.1	8.9	8.3	8.9	8.9	
82.9	82.3	84.5	82.8	82.6	78.8	69.6	
154.3	143.1	156.2	155.0	183.8	159.2	237.7	
23.0	12.7	13.3	17.9	22.7	19.2	30.1	
5.4	5.2	5.3	5.4	5.1	4.7	4.6	
86,916	86,992	87,053	87,147	82,469	82,583	82,653	
2,690	2,756	2,867	3,053	3,050	3,072	3,230	

連結純損益及びその他の包括利益計算書

参天製薬株式会社および子会社
2015年3月31日に終了した会計年度

	単位:百万円		単位:千米ドル
	2014	2015	2015
売上収益	¥146,260	¥161,831	\$1,346,680
売上原価	(57,353)	(56,373)	(469,107)
売上総利益	88,907	105,458	877,573
販売費及び一般管理費	(41,642)	(48,893)	(406,864)
製品に係る無形資産償却費	(190)	(3,979)	(33,111)
研究開発費	(16,862)	(17,477)	(145,437)
その他の収益	681	723	6,019
その他の費用	(1,016)	(458)	(3,811)
営業利益	29,878	35,374	294,369
金融収益	916	768	6,392
金融費用	(433)	(279)	(2,324)
税引前当期利益	30,361	35,863	298,437
法人所得税費用	(10,643)	(11,831)	(98,452)
当期利益	19,718	24,032	199,985
その他の包括利益			
純損益に振り替えられない項目:			
確定給付制度の再測定	463	303	2,524
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	2,236	7,863	65,442
純損益に振り替えられる可能性のある項目:			
在外営業活動体の換算差額	4,752	248	2,060
その他の包括利益	7,451	8,414	70,026
当期包括利益合計	27,169	32,446	270,011
当期利益の帰属			
親会社の所有者持分	19,718	24,032	199,985
非支配持分	—	—	—
当期利益	19,718	24,032	199,985
当期包括利益合計の帰属			
親会社の所有者持分	27,169	32,446	270,011
非支配持分	—	—	—
当期包括利益合計	¥ 27,169	¥ 32,446	\$ 270,011

1株当たり当期利益	単位:円		単位:米ドル
	2014	2015	2015
基本的1株当たり当期利益	¥ 47.78	¥ 58.18	\$ 0.48
希薄化後1株当たり当期利益	47.63	57.93	0.48

連結財政状態計算書

参天製薬株式会社および子会社
2015年3月31日現在

資産	単位:百万円		単位:千米ドル	
	2013年4月1日 (IFRS移行日)	2014	2015	2015
非流動資産				
有形固定資産	¥ 27,063	¥ 27,175	¥ 29,104	\$ 242,188
無形資産	22,605	26,610	84,433	702,614
金融資産	19,305	23,334	34,725	288,964
繰延税金資産	5,011	5,215	2,978	24,784
その他の非流動資産	2,234	2,065	2,288	19,039
非流動資産合計	76,218	84,399	153,528	1,277,589
流動資産				
棚卸資産	20,305	19,461	20,133	167,535
営業債権及びその他の債権	45,324	53,986	61,701	513,450
その他の金融資産	2,217	4,587	187	1,552
その他の流動資産	2,045	2,356	2,728	22,704
現金及び現金同等物	60,237	72,397	65,923	548,581
(小計)	130,128	152,787	150,672	1,253,822
売却目的で保有する資産	414	454	—	—
流動資産合計	130,542	153,241	150,672	1,253,822
資産合計	206,760	237,640	304,200	2,531,411
資本				
資本金	7,081	7,264	7,383	61,439
資本剰余金	7,776	7,959	8,077	67,217
自己株式	(2)	(9)	(18)	(158)
利益剰余金	150,516	162,727	178,840	1,488,227
その他の資本の構成要素	2,486	9,269	17,497	145,605
親会社の所有者に帰属する持分合計	167,857	187,210	211,779	1,762,330
資本合計	167,857	187,210	211,779	1,762,330
負債				
非流動負債				
金融負債	141	102	25,351	210,958
退職給付に係る負債	5,966	5,401	5,459	45,430
引当金	1,278	1,467	1,444	12,015
繰延税金負債	2,395	2,795	2,874	23,914
その他の非流動負債	1,007	1,479	953	7,937
非流動負債合計	10,787	11,244	36,081	300,254
流動負債				
営業債務及びその他の債務	13,766	19,072	20,250	168,507
その他の金融負債	5,846	4,880	19,298	160,593
未払法人所得税等	3,168	8,081	6,729	55,993
引当金	702	996	1,197	9,962
その他の流動負債	4,634	6,157	8,866	73,772
流動負債合計	28,116	39,186	56,340	468,827
負債合計	38,903	50,430	92,421	769,081
資本及び負債合計	¥206,760	¥237,640	¥304,200	\$2,531,411

連結持分変動計算書

参天製薬株式会社および子会社
2014年3月31日に終了した会計年度

単位:百万円

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2013年4月1日残高	¥7,081	¥7,776	¥(2)	¥150,516	¥ —	¥2,162
当期包括利益						
当期利益				19,718		
その他の包括利益					463	2,236
当期包括利益合計	—	—	—	19,718	463	2,236
所有者による拠出及び所有者への分配						
新株の発行	183	183				
自己株式の取得			(7)			
自己株式の処分		0	0			
配当金				(8,250)		
株式報酬取引						
その他				743	(463)	(280)
所有者による拠出及び所有者への分配合計	183	183	(7)	(7,507)	(463)	(280)
2014年3月31日残高	¥7,264	¥7,959	¥(9)	¥162,727	¥ —	¥4,118

単位:百万円

	その他の資本の構成要素			親会社の所有者に 帰属する持分合計	資本合計
	在外営業活動体の 換算差額	新株予約権	合計		
2013年4月1日残高	¥ —	¥324	¥2,486	¥167,857	¥167,857
当期包括利益					
当期利益			—	19,718	19,718
その他の包括利益	4,752		7,451	7,451	7,451
当期包括利益合計	4,752	—	7,451	27,169	27,169
所有者による拠出及び所有者への分配					
新株の発行		(49)	(49)	317	317
自己株式の取得			—	(7)	(7)
自己株式の処分			—	0	0
配当金			—	(8,250)	(8,250)
株式報酬取引		124	124	124	124
その他			(743)	—	—
所有者による拠出及び所有者への分配合計	—	75	(668)	(7,816)	(7,816)
2014年3月31日残高	¥4,752	¥399	¥9,269	¥187,210	¥187,210

単位:百万円

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2014年4月1日残高	¥7,264	¥7,959	¥(9)	¥162,727	¥ —	¥ 4,118
当期包括利益						
当期利益				24,032		
その他の包括利益					303	7,863
当期包括利益合計	—	—	—	24,032	303	7,863
所有者による拠出及び所有者への分配						
新株の発行	119	118				
自己株式の取得			(9)			
配当金				(8,259)		
株式報酬取引						
その他				340	(303)	(37)
所有者による拠出及び所有者への分配合計	119	118	(9)	(7,919)	(303)	(37)
2015年3月31日残高	¥7,383	¥8,077	¥(18)	¥178,840	¥ —	¥11,944

単位:百万円

	その他の資本の構成要素			親会社の所有者に 帰属する持分合計	資本合計
	在外営業活動体の 換算差額	新株予約権	合計		
2014年4月1日残高	¥4,752	¥399	¥9,269	¥187,210	¥187,210
当期包括利益					
当期利益			—	24,032	24,032
その他の包括利益	248		8,414	8,414	8,414
当期包括利益合計	248	—	8,414	32,446	32,446
所有者による拠出及び所有者への分配					
新株の発行		(32)	(32)	20	205
自己株式の取得			—	(9)	(9)
配当金			—	(8,259)	(8,259)
株式報酬取引		186	186	186	186
その他			(340)	—	—
所有者による拠出及び所有者への分配合計	—	154	(186)	(7,877)	(7,877)
2015年3月31日残高	¥5,000	¥553	¥17,497	¥211,779	¥211,779

連結持分変動計算書

参天製薬株式会社および子会社
2015年3月31日に終了した会計年度

単位:千米ドル

	その他の資本の構成要素				その他の資本の構成要素	
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2014年4月1日残高	\$60,449	\$66,227	\$(78)	\$1,354,141	\$ —	\$34,264
当期包括利益						
当期利益				199,985		
その他の包括利益					2,524	65,442
当期包括利益合計	—	—	—	199,985	2,524	65,442
所有者による拠出及び所有者への分配						
新株の発行	990	990				
自己株式の取得			(80)			
配当金				(68,732)		
株式報酬取引						
その他				2,833	(2,524)	(309)
所有者による拠出及び所有者への分配合計	990	990	(80)	(65,899)	(2,524)	(309)
2015年3月31日残高	\$61,439	\$67,217	\$(158)	\$1,488,227	\$ —	\$99,397

単位:千米ドル

	その他の資本の構成要素			その他の資本の構成要素	
	在外営業活動体の換算差額	新株予約権	合計	親会社の所有者に帰属する持分合計	資本合計
2014年4月1日残高	\$39,548	\$3,322	\$ 77,134	\$1,557,873	\$1,557,873
当期包括利益					
当期利益			—	199,985	199,985
その他の包括利益	2,060		70,026	70,026	70,026
当期包括利益合計	2,060	—	70,026	270,011	270,011
所有者による拠出及び所有者への分配					
新株の発行		(267)	(267)	1,713	1,713
自己株式の取得			—	(80)	(80)
配当金			—	(68,732)	(68,732)
株式報酬取引		1,545	1,545	1,545	1,545
その他			(2,833)	—	—
所有者による拠出及び所有者への分配合計	—	1,278	(1,555)	(65,554)	(65,554)
2015年3月31日残高	\$41,608	\$4,600	\$145,605	\$1,762,330	\$1,762,330

連結キャッシュ・フロー計算書

参天製薬株式会社および子会社
2015年3月31日に終了した会計年度

	単位:百万円		単位:千米ドル
	2014	2015	2015
営業活動によるキャッシュ・フロー			
当期利益	¥19,718	¥24,032	\$199,985
減価償却費及び償却費	2,841	6,958	57,899
減損損失	216	290	2,413
金融収益及び金融費用	(759)	(529)	(4,406)
法人所得税費用	10,643	11,831	98,452
営業債権及びその他の債権の増減	(8,128)	(7,701)	(64,088)
棚卸資産の増減	1,411	(521)	(4,332)
営業債務及びその他の債務の増減	5,242	1,251	10,408
引当金及び退職給付に係る負債の増減	346	761	6,336
その他	1,883	2,554	21,258
小計	33,413	38,926	323,925
利息の受取額	104	81	673
配当金の受取額	518	548	4,562
利息の支払額	(9)	(82)	(682)
法人所得税の支払額	(7,340)	(14,087)	(117,230)
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,686	25,386	211,248
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出	(111)	(84)	(703)
定期預金の払戻による収入	92	184	1,530
投資の取得による支出	(4,825)	(114)	(945)
投資の売却及び償還による収入	2,933	4,149	34,530
有形固定資産の取得による支出	(3,461)	(2,972)	(24,734)
有形固定資産の売却による収入	2	656	5,455
無形資産の取得による支出	(2,418)	(63,468)	(528,155)
その他	(59)	(60)	(492)
投資活動によるキャッシュ・フロー	(7,847)	(61,709)	(513,514)
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入れによる収入	—	35,000	291,254
短期借入金の返済による支出	—	(35,000)	(291,254)
長期借入れによる収入	—	40,000	332,862
長期借入金の返済による支出	(29)	(2,970)	(24,712)
配当金の支払額	(8,247)	(8,264)	(68,769)
その他	322	194	1,607
財務活動によるキャッシュ・フロー	(7,954)	28,960	240,988
現金及び現金同等物の増減額	10,885	(7,363)	(61,278)
現金及び現金同等物の期首残高	60,237	72,397	602,451
現金及び現金同等物の為替変動による影響	1,275	889	7,408
現金及び現金同等物の期末残高	¥72,397	¥65,923	\$548,581

財務情報の詳細について

日本語版アニュアルレポートの財務セクションに掲載している連結財務諸表は、情報開示の充実を目的とした英語版アニュアルレポートに掲載している連結財務諸表の和訳版(連結財務諸表注記を除く)となります。

英語版アニュアルレポートに掲載している連結財務諸表は、有限責任 あずさ監査法人による監査報告書を受領しています。

連結財務諸表注記を含む財務情報の詳細については、当社ホームページ内の「有価証券報告書」をご参照ください。

有価証券報告書

<http://www.santen.co.jp/ja/ir/document/securities.jsp>

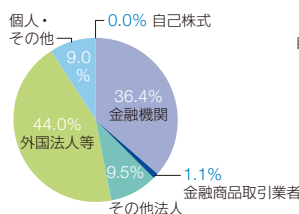
会社概要／株式情報

2015年3月31日現在

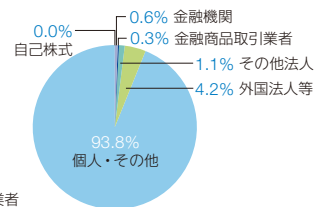
本 社 参天製薬株式会社
 〒530-8552
 大阪市北区大深町4番20号
 グランフロント大阪 タワーA
 TEL：06-6321-7000(代表)
 06-4802-9360(広報IR)
メール ir@santen.co.jp
URL http://www.santen.co.jp
創 業 1890年
資本金 7,383百万円
株主数 11,368名
株式上場市場 東京
証券コード 4536
株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部
事務取扱場所 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
 TEL：0120-094-777
主な営業拠点 仙台、東京、名古屋、大阪、福岡
工場 能登、滋賀
研究所 奈良研究開発センター
従業員数 3,230名(単体1,899名)
発行済株式数 82,653,103株

株主分布状況

所有株式数別分布状況



所有者別分布状況

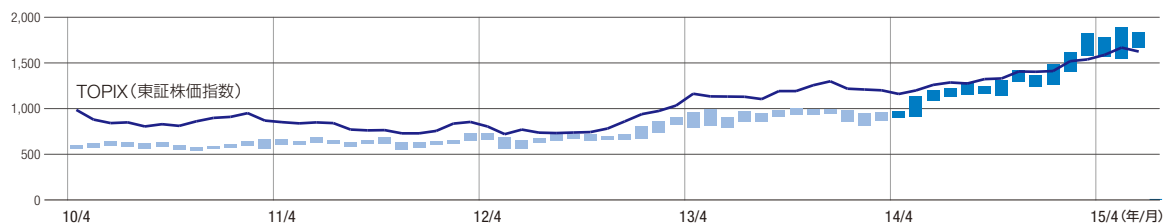


大株主の状況(上位10名)

株主名	所有株式数	出資比率
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー 505223	5,709千株	6.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	5,587	6.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,432	4.2
株式会社日本政策投資銀行	3,310	4.0
日本生命保険相互会社	2,132	2.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,121	2.6
小野薬品工業株式会社	1,861	2.3
第一三共株式会社	1,836	2.2
全国共済農業協同組合連合会	1,438	1.7
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 エーザイロ 再信託受託者 資金管理サービス信託銀行株式会社	1,373	1.7

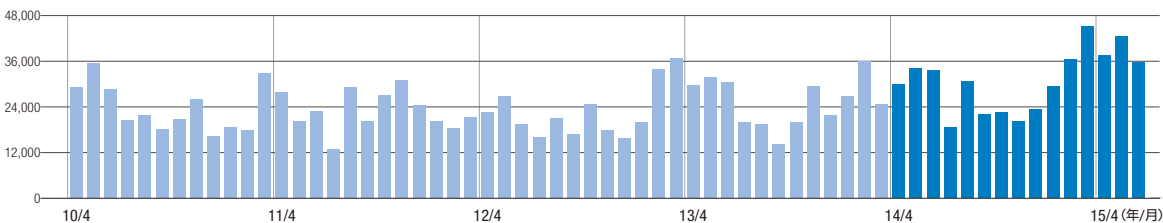
株価の推移(円)

月足ベース



株式売買高(千株)

月足ベース



年間の高値・安値

	2011	2012	2013	2014	2015
高値(円)	689	731	1,010	1,230	1,892
安値(円)	546.2	555.6	666	813	1,262

(注) 1. 上表の年表示は暦年(1月1日から12月31日)を示しています。
 2. 2015年は6月末までの株価です。
 3. 株価・株式売買高は、2013年7月16日より東京証券取引所、それ以前は大阪証券取引所のものであります。
 4. 2015年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。
 株式分割前の株価・株式売買高は株式分割の比率で調整した値となっています。

事業拠点

2015年8月現在

本社および子会社

所在国

① 本社	日本
② 株式会社クレール Claire Co., Ltd.	日本
③ サンテン・ホールディングス・ユーエス・インク Santen Holdings U.S. Inc.	米国
④ サンテン・インク Santen Inc.	米国
⑤ アドバンスド・ビジョン・サイエンス・インク Advanced Vision Science, Inc.	米国
⑥ サンテン・ホールディングス・イーユー・ビー・ヴィ Santen Holdings EU B.V.	オランダ
⑦ サンテン・オイ Santen Oy	フィンランド
⑧ サンテン・エス・エー・エス Santen S.A.S.	フランス
⑨ サンテン・ゲーエムベーハー Santen GmbH	ドイツ
⑩ サンテンファーマ・エービー SantenPharma AB	スウェーデン
⑪ サンテン・スイス・エスエー Santen Switzerland SA	スイス
⑫ サンテン・イタリー・エスアールエル Santen Italy S.r.l.	イタリア
⑬ サンテン・ユークー・リミテッド Santen UK Limited	イギリス
⑭ サンテン・ファーマシューティカル・スペイン・エスエル Santen Pharmaceutical Spain, S.L.	スペイン
⑮ 参天製薬(中国)有限公司 Santen Pharmaceutical (China) Co., Ltd.	中国
⑯ 参天医薬販売(蘇州)有限公司 Santen Pharmaceutical Sales & Marketing (Suzhou) Co., Ltd.	中国
⑰ 韓国参天製薬株式会社 Santen Pharmaceutical Korea Co., Ltd.	韓国
⑱ 台湾参天製薬股份有限公司 Taiwan Santen Pharmaceutical Co., Ltd.	台湾
⑲ サンテン・インド・プライベート・リミテッド Santen India Private Limited	インド
⑳ サンテン・ファーマシューティカル・アジア・プライベート・リミテッド Santen Pharmaceutical Asia Pte. Ltd.	シンガポール
㉑ サンテン(タイランド)カンパニー・リミテッド SANTEN (THAILAND) CO., LTD.	タイ
㉒ サンテン・ファーマ・マレーシア・スリディアン・ブルハド SANTEN PHARMA MALAYSIA SDN. BHD.	マレーシア
㉓ サンテン・フィリピン・インク SANTEN PHILIPPINES INC.	フィリピン

その他事業所

- ㉔ 北京事務所(中国) ㉕ ホーチミン事務所(ベトナム)



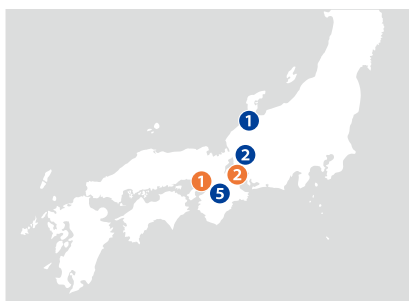
① 能登工場(日本)



② 滋賀プロダクトサプライセンター(日本)



③ タンペレ工場(フィンランド)



④ 蘇州工場(中国)



⑤ 奈良研究開発センター(日本)



1890

創業者田口謙吉が大坂北浜に田口参天堂を開業

1925

参天堂株式会社を設立

1935

大阪市東淀川区に淀川工場を開設

1944

本社を淀川工場の敷地(大阪市東淀川区)に移転

1945

社名を参天堂製薬株式会社に変更

1958

社名を現在の参天製薬株式会社に変更
医療用医薬品事業に進出

1977

東京・大阪証券取引所第1部に上場
容器成型と薬液充填を同時に行う
「ボトルパック」製造システムを導入

1982

中央研究所が竣工

1985

能登工場が竣工

1990

創業100周年をむかえ長期ビジョンを策定

1993

米国にサンテン・インクを設立

1994

ドイツにサンテン・ゲーエムベーハーを設立

1996

北京事務所を開設
奈良研究開発センター、滋賀工場(現:滋賀
プロダクトサプライセンター)が竣工

1997

フィンランドの眼科薬企業スター社を買収し、
サンテン・オイを設立
台湾参天製薬股份有限公司を設立

1998

中期構想「ひとみ21」を策定

2000

韓国参天製薬株式会社を設立
広州事務所を開設

2001

米国のアドバンスド・ビジョン・
サイエンス・インクを買収

2002

患者さんの視点で開発した革新的な医療
用点眼剤容器「ディンプルボトル」を導入

1900

創業当時

風邪薬
「ヘ布林丸」



1899

「大学目薬」



1952

「大学ペニシリン目薬」

1953

「大学マイシリン目薬」

1954

「大学スーパー目薬」

1962

散瞳点眼剤
「ミドリnP」



国内初のプラスチック
容器目薬「スーパーサンテ」



1963

自社開発の肝治療解毒剤
「チオラ」



1965

「サンテドゥ」

1970

抗生物質製剤
「エコリシン」

1975

抗炎症点眼剤
「フルメトロン」



1978

医療用具の販売開始

1981

緑内障・高眼圧症治療剤
「チモプトール」

1985

「サンテ40NE」



1986

眼内レンズの販売開始

1987

抗リウマチ剤
「リマチル」



合成抗菌点眼剤
「タリビッド」

1991

「サンテFX」



1992

眼灌流・洗浄液
「ピーエスエスプラス」

初期老人性白内障治療剤
「カリーユニ」



1995

角結膜上皮障害治療剤
「ヒアレイン」
(一般名:ヒアルロン酸
ナトリウム)



抗アレルギー点眼剤
「アレキサール」

抗リウマチ剤
「アサルフィジンEN」

眼科手術補助剤
「オベガンハイ」

1999

緑内障・高眼圧症治療剤
「チモプトールXE」



「サンテFXネオ」

2000

合成抗菌点眼剤
「クラビット」
(一般名:レボフロキサシン)



(注)当社での販売開始の年を基準に記載

1990

2003

2003-2005中期経営計画を策定
能登工場でISO14001を取得
医薬情報活動支援システム
「SAIN(サイン)」を構築

2004

米国でジョンソン・エンド・ジョンソン
ビジョンケア・インクによる
医療用眼科薬の提携販売を開始

2005

参天製薬(中国)有限公司を設立

2006

2006-2010年度中期経営計画を策定

2007

参天製薬(中国)有限公司の蘇州工場が竣工

2008

奈良研究開発センター製剤開発棟、
新付属棟が完成

2009

参天製薬(中国)有限公司が自社販売を開始

2010

韓国参天製薬が自社販売を開始

2011

2011-2013年度中期経営計画を策定
インドにサンテン・インディア・
プライベート・リミテッドを設立

2012

フランスのノバガリ・ファーマ・エス・エー・エス
(現:サンテン・エス・エー・エス)を買収し
100%子会社化
オランダに欧州持株会社 サンテン・ホール
ディングス・イーユー・ビー・ヴィを設立
蘇州工場で一貫製造を開始

2013

本社を大阪市北区に移転
ホーチミン事務所を開設
シンガポールにサンテン・ファーマシューティ
カル・アジア・プライベート・リミテッドを設立

2014

米国メルク社が保有する眼科製品を承継
2014-2017年度中期経営計画を策定
スイス、イタリア、イギリス、スペイン、タイ、
マレーシア、フィリピンに子会社を設立

2015

抗リウマチ薬事業をあゆみ製薬株式会社へ
承継

2000

2001

緑内障・高眼圧症治療剤
「テタントール」
抗アレルギー点眼剤
「リボスチン」



2002

「サンテドアップラス E アルファ」
「サンテ40」

2003

フォールダブル(折りたたみ式)
眼内レンズ「クラリフレックス」

2004

緑内障・高眼圧症治療剤
「レスキュラ」
抗リウマチ剤
「メトレート」

2006

春季カタル治療剤
「パピロックミニ」
「サンテメディカル10」
「サンテALクールII」



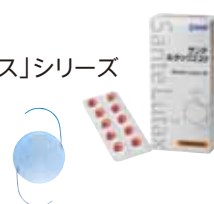
2007

「サンテうるおいコンタクトa」

2008

栄養補助食品
「サンテルタックス」シリーズ
「サンテ40i」

眼内レンズ
「エタニティー」



緑内障・高眼圧症治療剤
「タブロス」
(一般名:タフルプロスト)

2009

「サンテFX Vプラス」

眼内レンズ
「エタニティー ナチュラル」



2010

緑内障・高眼圧症治療剤
「コソプト」
ドライアイ治療剤
「ジクアス」

2012

「サンテメディカルガード」
眼科用VEGF阻害剤
「アイリーア」
「サンテ40」シリーズ



2013

眼内レンズ「エタニティー ナチュラル ユニ」
「サンテ ボーティエ」
「サンテPC」

緑内障・高眼圧症治療剤
「タブロスミニ」

抗アレルギー点眼剤
「アレジオン」

2014

緑内障・高眼圧症治療剤
「タブコム」
(一般名:タフルプロスト/
チモロールマレイン酸塩)

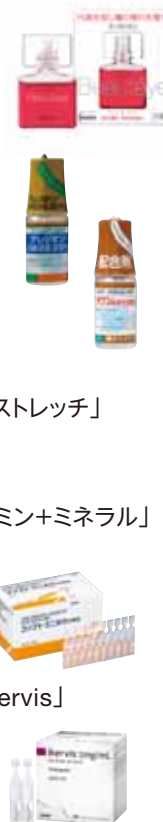
「ソフトサンティア ひとみストレッチ」

2015

栄養補助食品
「サンテルタックス20ビタミン+ミネラル」
「新サンテドウα」

緑内障・高眼圧症治療剤
「コソプトミニ」

ドライアイ患者の重度の
角膜障害治療用点眼剤「Ikervis」





www.santen.co.jp

下記の販売名は、提携会社の登録商標です。

「クラビット」「タリビッド」(第一三共株式会社)、「アザルフィジン」(ファイザー・インク)、
「デタントール」(エーザイ株式会社)、「リボスチン」(ジョンソン・エンド・ジョンソン)、「レスキュラ」(株式会社アールテック・ウエノ)、
「アイリーア」(バイエル アクチエンゲゼルシャフト)、アレジオン(ペーリンガー・インゲルハイム)



このアニユアルレポートは
植物油インキで印刷しています。 Printed in Japan